

# 台風第19号等の概要

令和元年12月18日

令和元年台風第19号等による災害からの避難に関するワーキンググループ  
(第1回) 資料より

# 今年度の災害

令和元年度の出水期は、大雨や暴風により多くの災害が発生し、特に以下の4事例は被害が大きかった。

## ●台風第19号による大雨と暴風

- 静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨。
- 13都県に大雨特別警報を発表。

10月10日から10月13日までの総降水量

神奈川県箱根で1001.5ミリ  
静岡県湯ヶ島で760.0ミリ  
埼玉県浦山で687.0ミリ  
東京都小沢で649.0ミリ  
宮城県筆甫で607.5ミリ  
岩手県普代で467.0ミリ



北陸新幹線車両基地 浸水状況



鹿島川(佐倉市)10/27 15時頃

## ●低気圧等による大雨

- 千葉県や福島県を中心に大雨。

10月24日から10月26日までの総降水量

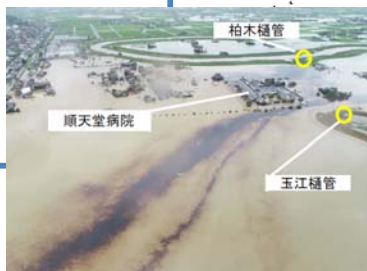
千葉県牛久で285.0ミリ  
福島県浪江で251.5ミリ

## ●前線による大雨

- 九州北部地方を中心に大雨。
- 佐賀県、福岡県、長崎県に大雨特別警報を発表。

8月26日から8月29日までの総降水量

長崎県平戸で626.5ミリ  
佐賀県唐津で533.0ミリ  
福岡県久留米で408.0ミリ



油の流出状況 8月28日時点

## ●台風第15号による暴風と大雨

- 伊豆諸島や千葉県を中心に暴風。
- 東海地方や関東地方を中心に大雨。

9月7日から9月9日までの期間最大風速

東京都神津島で43.4メートル、千葉県千葉で35.9メートル

9月7日から9月9日までの総降水量

静岡県天城山で450.5ミリ、東京都大島で314.0ミリ



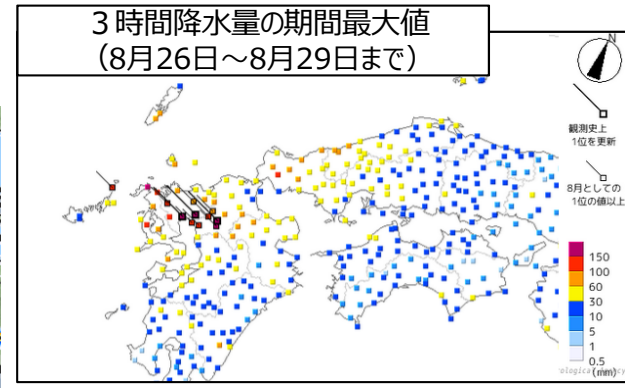
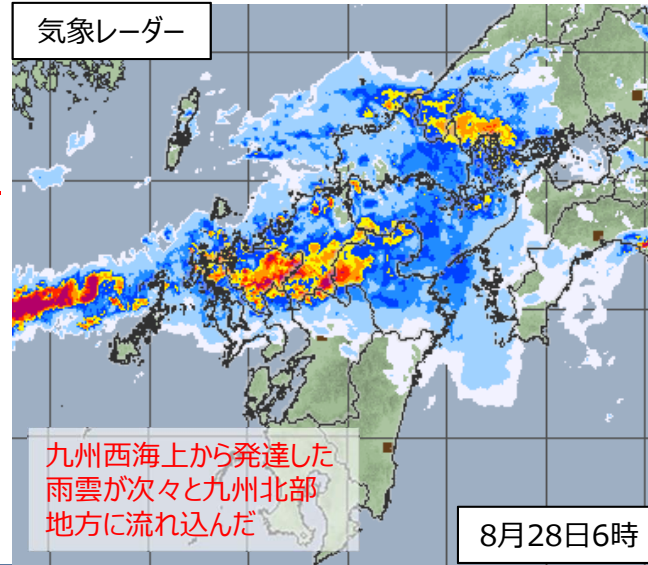
住宅の被害写真(鋸南町岩井袋地区)

# 今年度の災害

## 1. 8月26日から29日にかけての前線による大雨 (佐賀県、長崎県、福岡県に大雨特別警報)

停滞していた前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、九州北部地方を中心に大雨となった。26日から29日までの総降水量は長崎県平戸市平戸で626.5ミリ、佐賀県唐津市唐津で533.0ミリに達するなど8月の月降水量平年値の2倍を超える大雨となった。特に、28日明け方には線状降水帯が停滞したため、3時間降水量などの観測記録を更新するような大雨となった。この記録的な大雨により、28日5時50分に佐賀県、福岡県、長崎県に大雨特別警報を発表した。

この大雨の影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害が発生した。



3時間降水量の期間最大値 (5mm以上のみ)

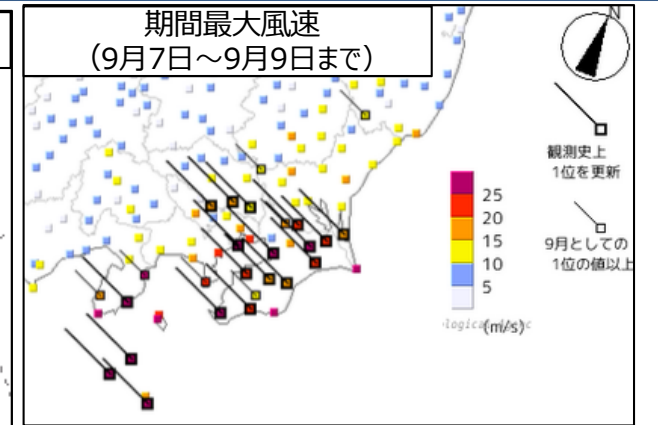
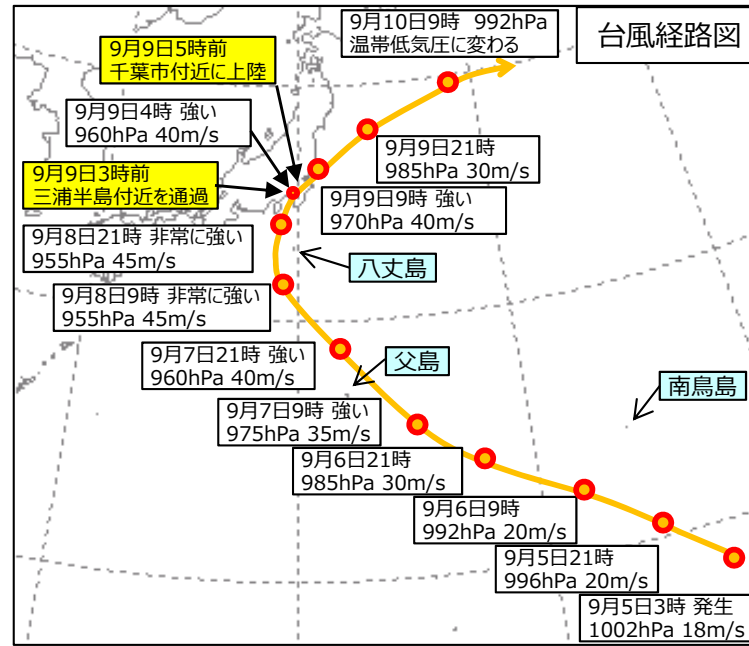
順位	都道府県	市町村	地点	期間最大値		
				mm	年月日	時分(まで)
1	佐賀県	杵島郡白石町	白石 (シロイシ)	※1 245.0	2019/08/28	05:50
2	佐賀県	佐賀市	佐賀 (サガ)	※1 223.5	2019/08/28	06:10
3	長崎県	平戸市	平戸 (ヒラド)	162.0	2019/08/28	05:00
4	福岡県	八女市	黒木 (クロギ)	※2 153.0	2019/08/28	07:20
5	福岡県	久留米市	耳納山 (ミノウサン)	※1 151.5	2019/08/28	06:30

※1：観測史上1位を更新  
※2：8月の1位の値を更新

## 2. 台風第15号による暴風と大雨

台風第15号の接近・上陸に伴い、東京都神津島村神津島で最大風速43.4メートルを観測するなど伊豆諸島と関東地方南部の6地点で最大風速30メートル以上の猛烈な風を観測し、関東地方を中心に19地点で最大風速の観測史上1位の記録を更新した。また、9月7日から9日までの総雨量は伊豆市大城山で450.5ミリに達し、大島町大島や伊豆市湯ヶ島で300ミリを超える大雨となった。

この暴風の影響で、千葉県では電柱の倒壊が相次ぎ、広い範囲で停電が発生したほか、大雨の影響で浸水害や土砂災害が発生した。



期間最大風速

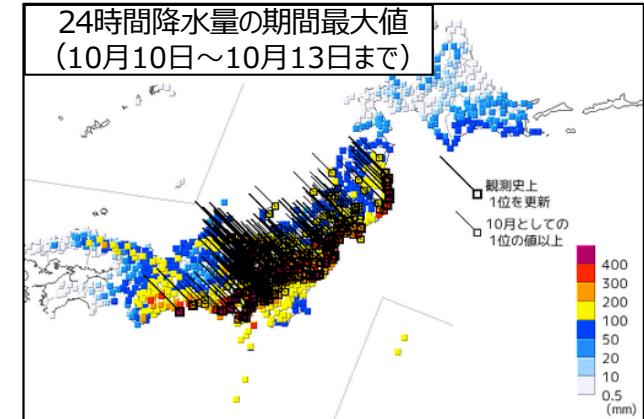
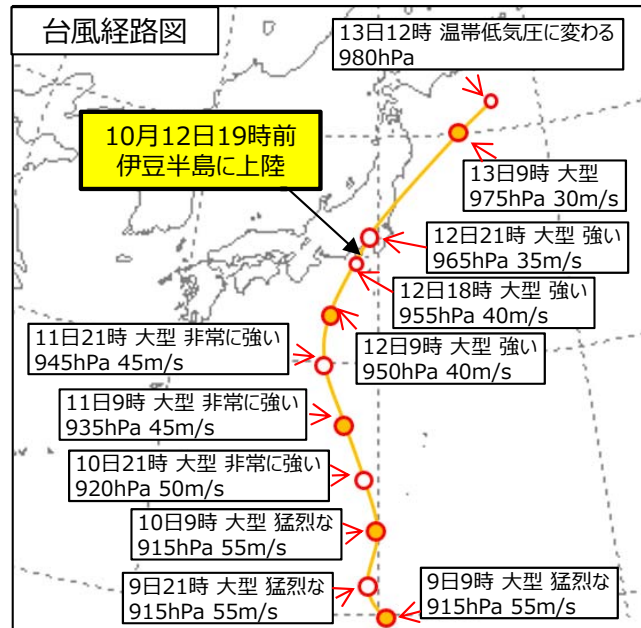
順位	都道府県	市町村	地点	期間最大値		
				m/s	風向	年月日 時分(まで)
1	東京都	神津島村	神津島 (コウツシマ)	※1 43.4	東南東	2019/09/08 21:13
2	東京都	新島村	新島 (ニイジマ)	※1 39.0	東南東	2019/09/08 21:59
3	東京都	三宅村	三宅坪田 (ミヤケツボタ)	※1 37.4	南	2019/09/08 21:27
4	千葉県	千葉市中央区	千葉 (チバ)	※1 35.9	南東	2019/09/09 04:28
5	東京都	大田区	羽田 (ハネダ)	※1 32.4	東北東	2019/09/09 03:32

※1：観測史上1位を更新

# 今年度の災害

## 3. 台風第19号による大雨と暴風 (13都県に大雨特別警報)

静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となった。10月10日から13日までの総降水量は神奈川県箱根町箱根で1000ミリに達し、東日本を中心に17地点で500ミリを超えた。この記録的な大雨により、13都県に大雨特別警報を発表した。  
この大雨の影響で、広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害が発生した。



24時間降水量の期間最大値 (5mm以上のみ)

順位	都道府県	市町村	地点	期間最大値		
				mm	年月日	時分(まで)
1	神奈川県	足柄下郡箱根町	箱根 (ハコネ)	※1 942.5	2019/10/12	21:00
2	静岡県	伊豆市	湯ヶ島 (ユガシマ)	※1 717.5	2019/10/12	18:50
3	埼玉県	秩父市	浦山 (ウラヤマ)	※1 647.5	2019/10/12	22:00
4	東京都	西多摩郡檜原村	小沢 (オザワ)	※1 627.0	2019/10/12	21:20
5	静岡県	静岡市葵区	梅ヶ島 (ウメガシマ)	※2 613.5	2019/10/12	20:00

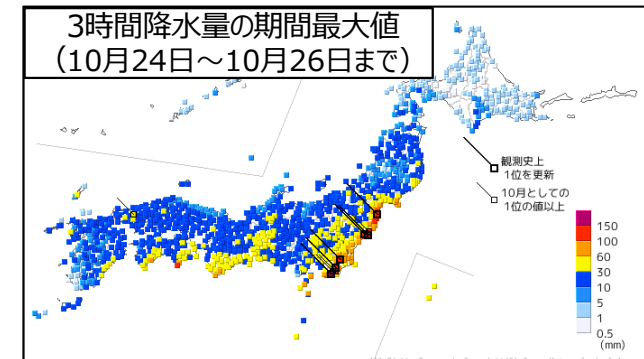
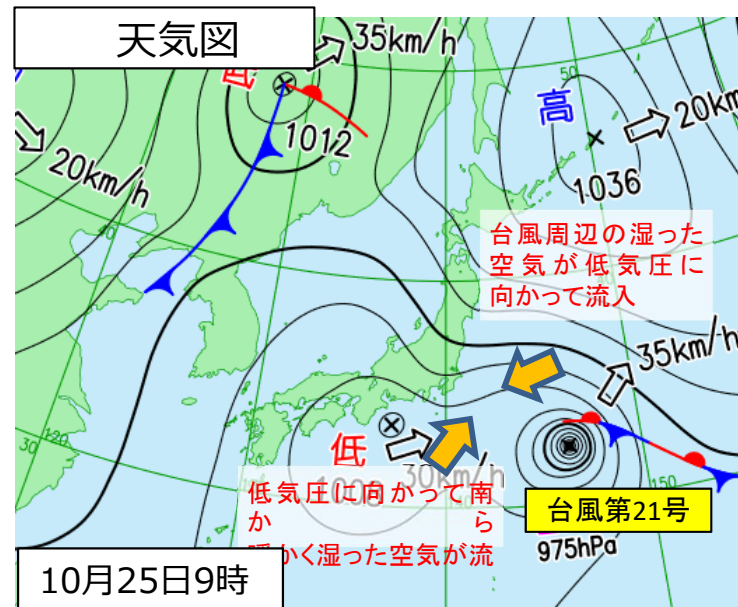
※1：観測史上1位を更新

※2：10月の1位の値を更新

## 4. 10月24日から26日にかけての低気圧等による大雨

西日本、東日本、北日本の太平洋沿岸に沿って進んだ低気圧と日本の東海上を北上した台風第21号の影響により、関東地方から東北地方の太平洋側を中心に大雨となった。特に千葉県や福島県では、10月24日から26日までの総降水量が200ミリを超えたほか、3、6時間降水量の観測史上1位の値を更新する記録的な大雨となった。

この大雨の影響で、千葉県や福島県を中心に土砂災害、浸水害、河川の氾濫が発生した。



3時間降水量の期間最大値 (5mm以上のみ)

順位	都道府県	市町村	地点	期間最大値		
				mm	年月日	時分(まで)
1	千葉県	鴨川市	鴨川 (カモガワ)	※1 160.0	2019/10/25	12:00
2	福島県	相馬市	相馬 (ソウマ)	※1 141.0	2019/10/25	21:50
3	千葉県	市原市	牛久 (ウシク)	※1 139.5	2019/10/25	12:50
4	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜 (オオタキ)	※2 131.5	2019/10/25	12:20
5	福島県	相馬郡新地町	新地 (シンチ)	130.5	2019/10/25	22:10

※1：観測史上1位を更新

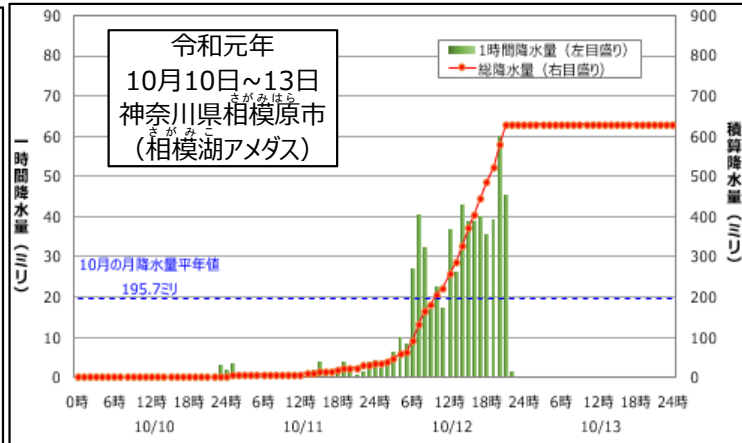
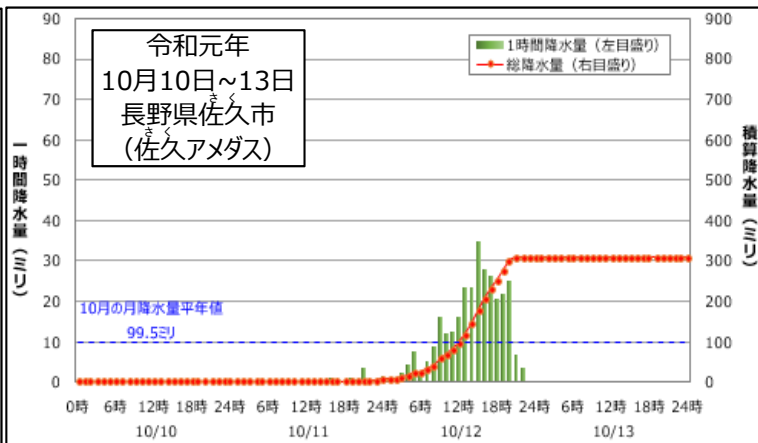
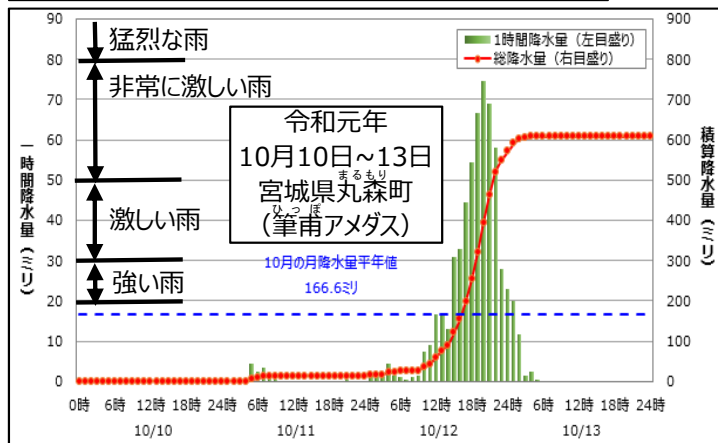
※2：10月の1位の値を更新

# 「令和元年台風第19号」と「平成30年7月豪雨」との比較

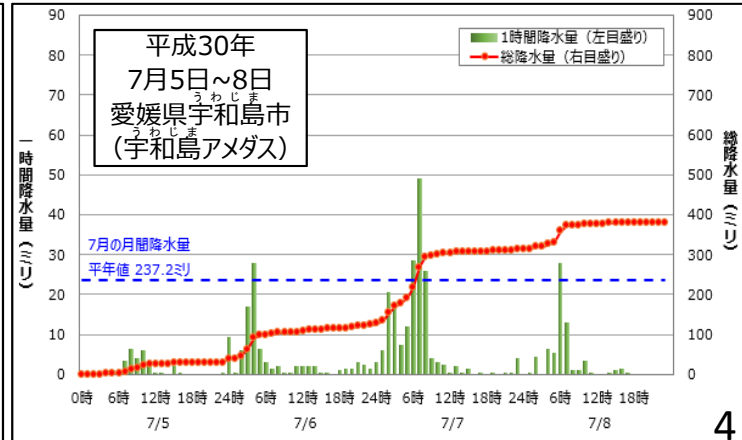
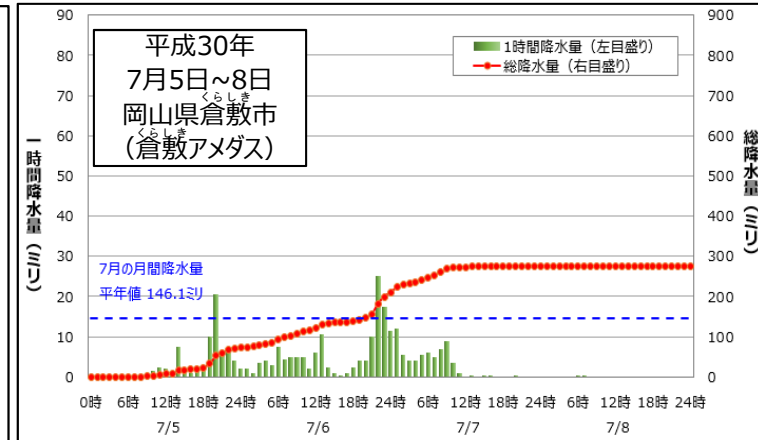
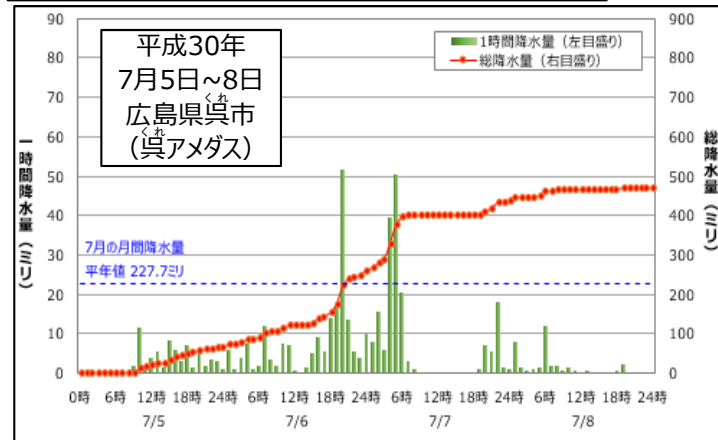
**平成30年7月豪雨**は、6月28日から7月8日までの総降水量が多いところで1,800ミリを超えた。特に7月5日から8日の4日間で西日本を中心に強い雨や激しい雨が**断続的に降り、多くの地点で48、72時間降水量の観測史上1位を更新した。**

これに対して、**令和元年台風第19号**は、10月10日から13日までの総降水量が多いところで1,000ミリを超えた。台風が接近・上陸した10月12日から13日にかけての**半日から1日程度で静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に**広範囲に短時間で非常に激しい雨や猛烈な雨**が降り、10月の月降水量平年値の約3倍となったところもあり、多くの地点で**12、24時間降水量の観測史上1位を更新した。****

令和元年台風第19号



平成30年7月豪雨



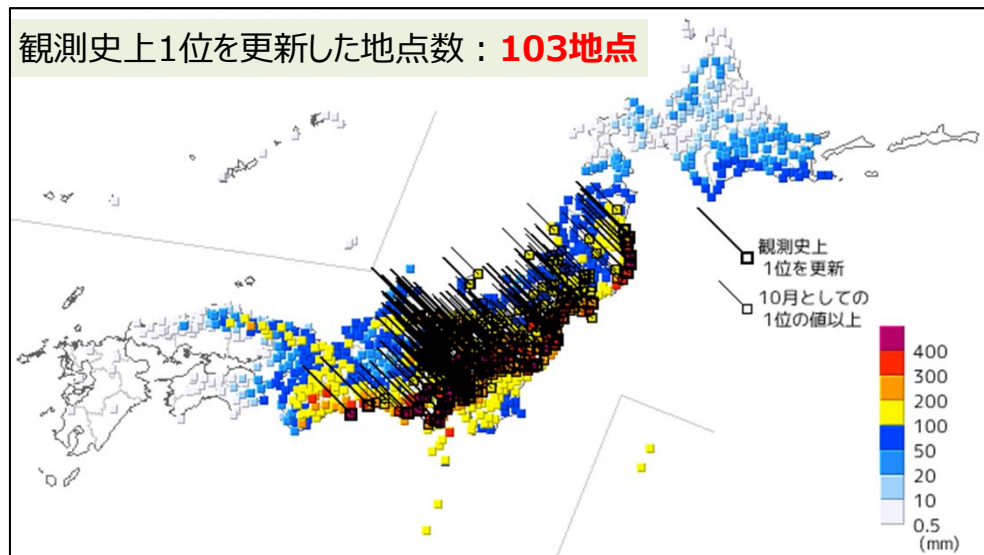
# 「令和元年台風第19号」と「平成30年7月豪雨」との比較

## 令和元年台風第19号

(令和元年10月10日～10月13日)

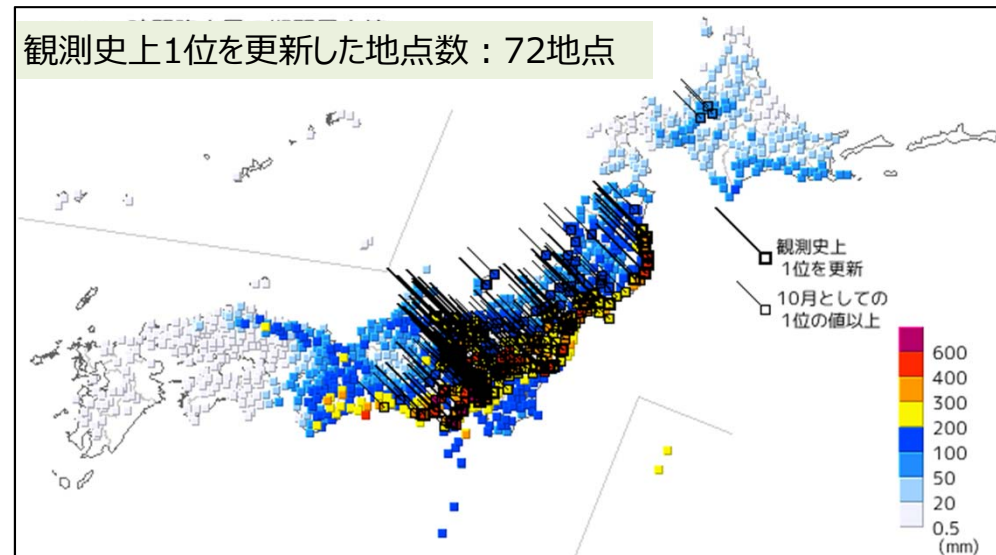
### ■ 期間最大24時間降水量 (アメダス)

観測史上1位を更新した地点数：**103地点**



### ■ 期間最大48時間降水量 (アメダス)

観測史上1位を更新した地点数：72地点

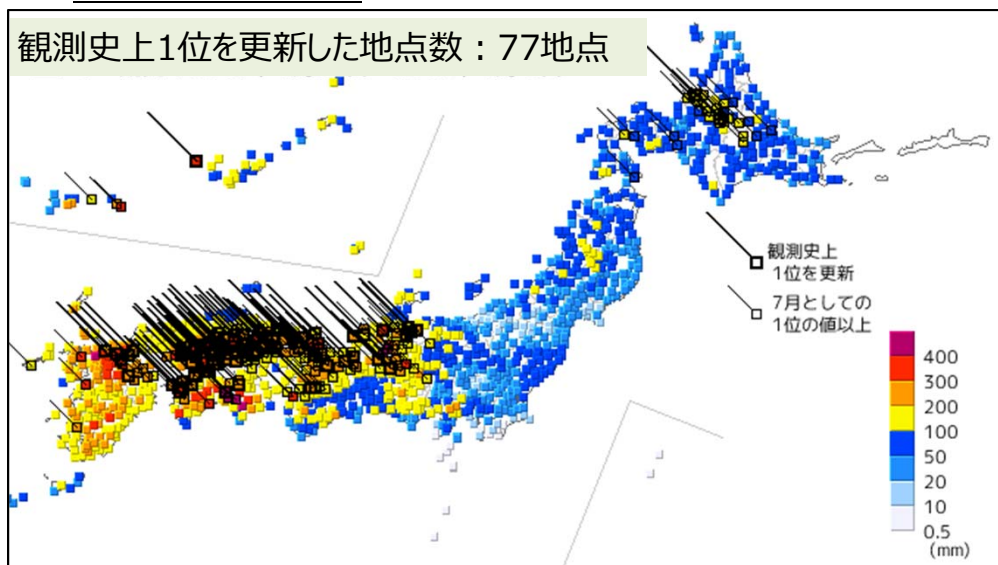


## 平成30年7月豪雨

(平成30年6月28日～7月8日)

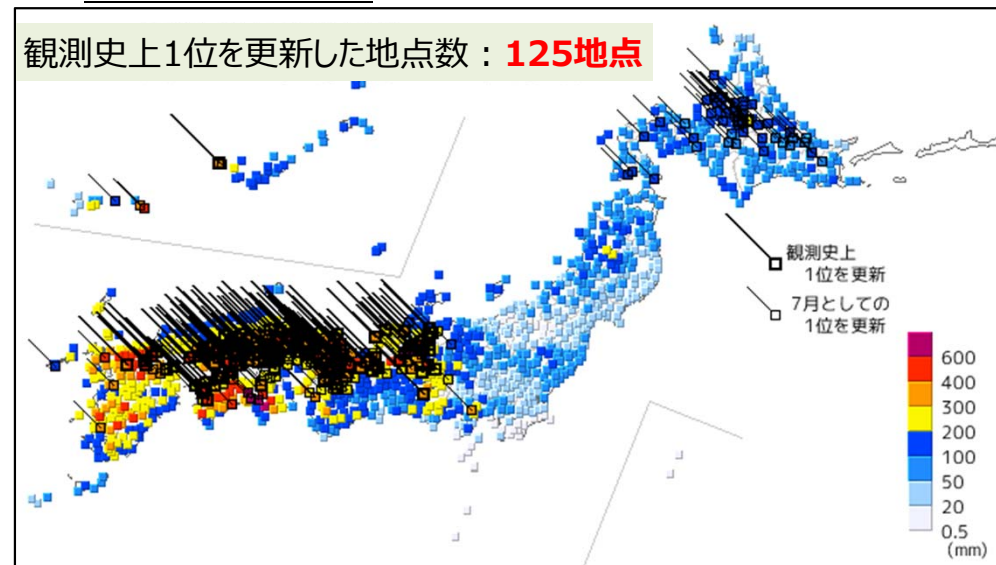
### ■ 期間最大24時間降水量 (アメダス)

観測史上1位を更新した地点数：77地点



### ■ 期間最大48時間降水量 (アメダス)

観測史上1位を更新した地点数：**125地点**



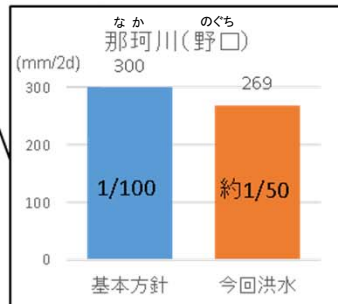
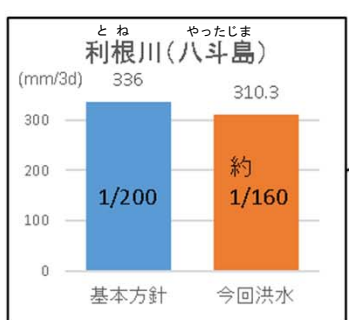
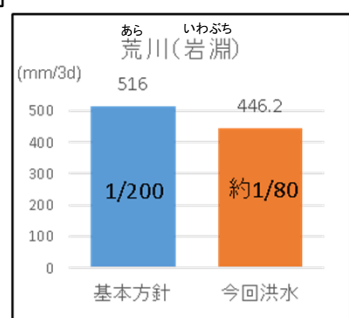
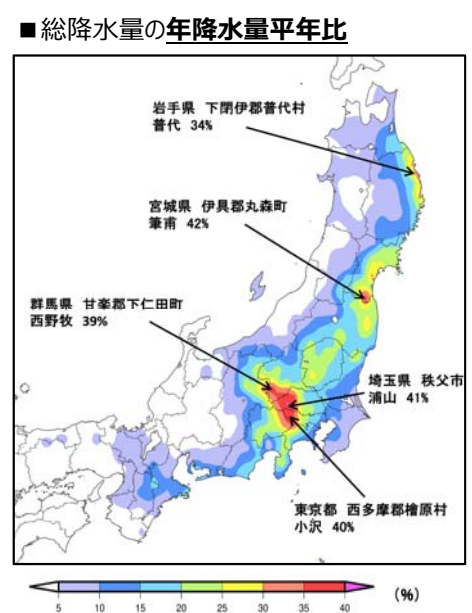
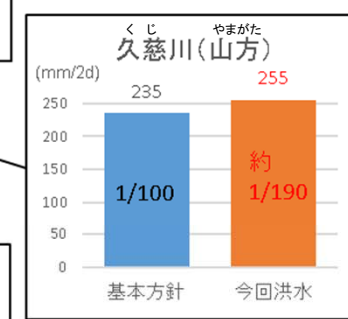
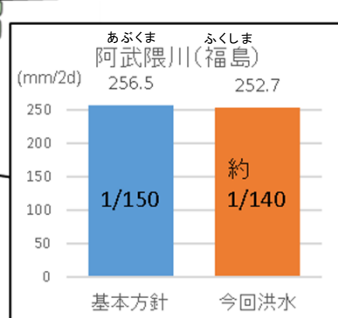
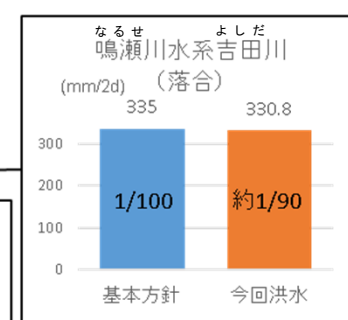
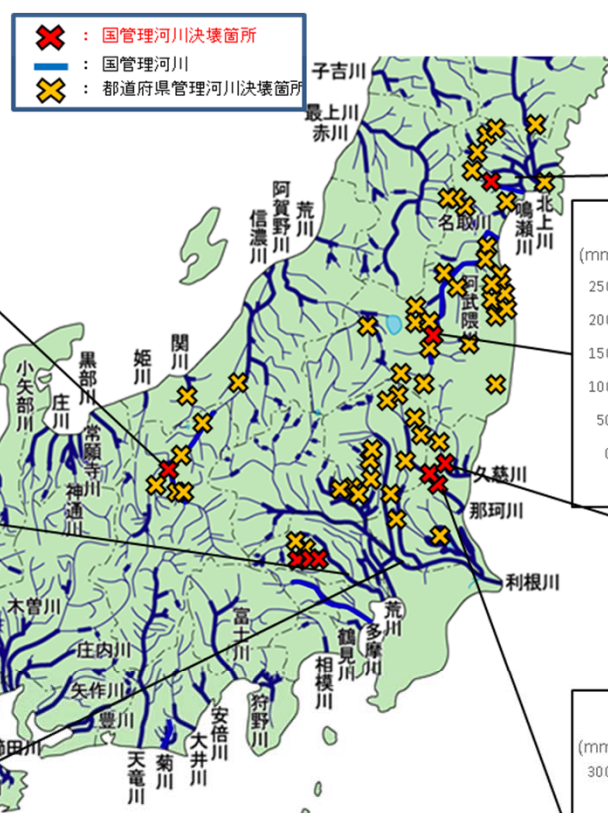
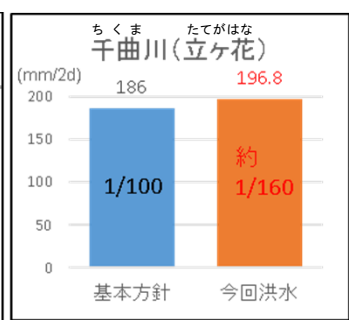
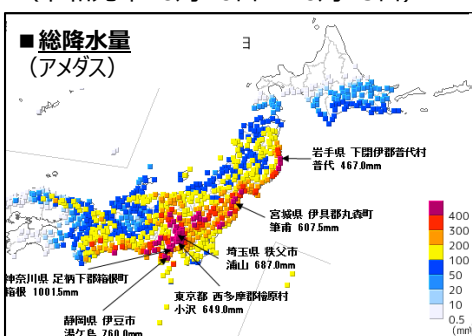
# 東日本に影響をもたらした台風第19号

台風第19号は、接近・上陸した10月12日から13日にかけて**半日から1日程度で各地に降った総降水量は、東京都西多摩郡、埼玉県秩父市、宮城県丸森町では、年間降水量の40%を超える大雨となった。**

各河川の流域でも、**信濃川水系千曲川、久慈川**においては河川の**計画規模を超える降雨**となり、阿武隈川や鳴瀬川水系吉田川や利根川なども計画規模に匹敵する大雨をもたらした。

その結果、各地の大河川で堤防が決壊することとなり、**平成30年7月豪雨を超える浸水被害**となる。

(令和元年10月10日～10月13日)



※決壊箇所は、令和元年10月21日 7:00時点 判明情報  
※荒川は支川で決壊が発生、利根川では決壊はない。  
※数値は速報値(R1.11.19時点)であり、今後変更となる場合がある。

# 台風第19号による堤防の決壊等の状況

[国管理河川] 堤防決壊 6水系7河川12箇所

(鳴瀬川水系吉田川、阿武隈川水系阿武隈川、久慈川水系久慈川、那珂川水系那珂川、荒川水系越辺川、荒川水系都幾川、信濃川水系千曲川)

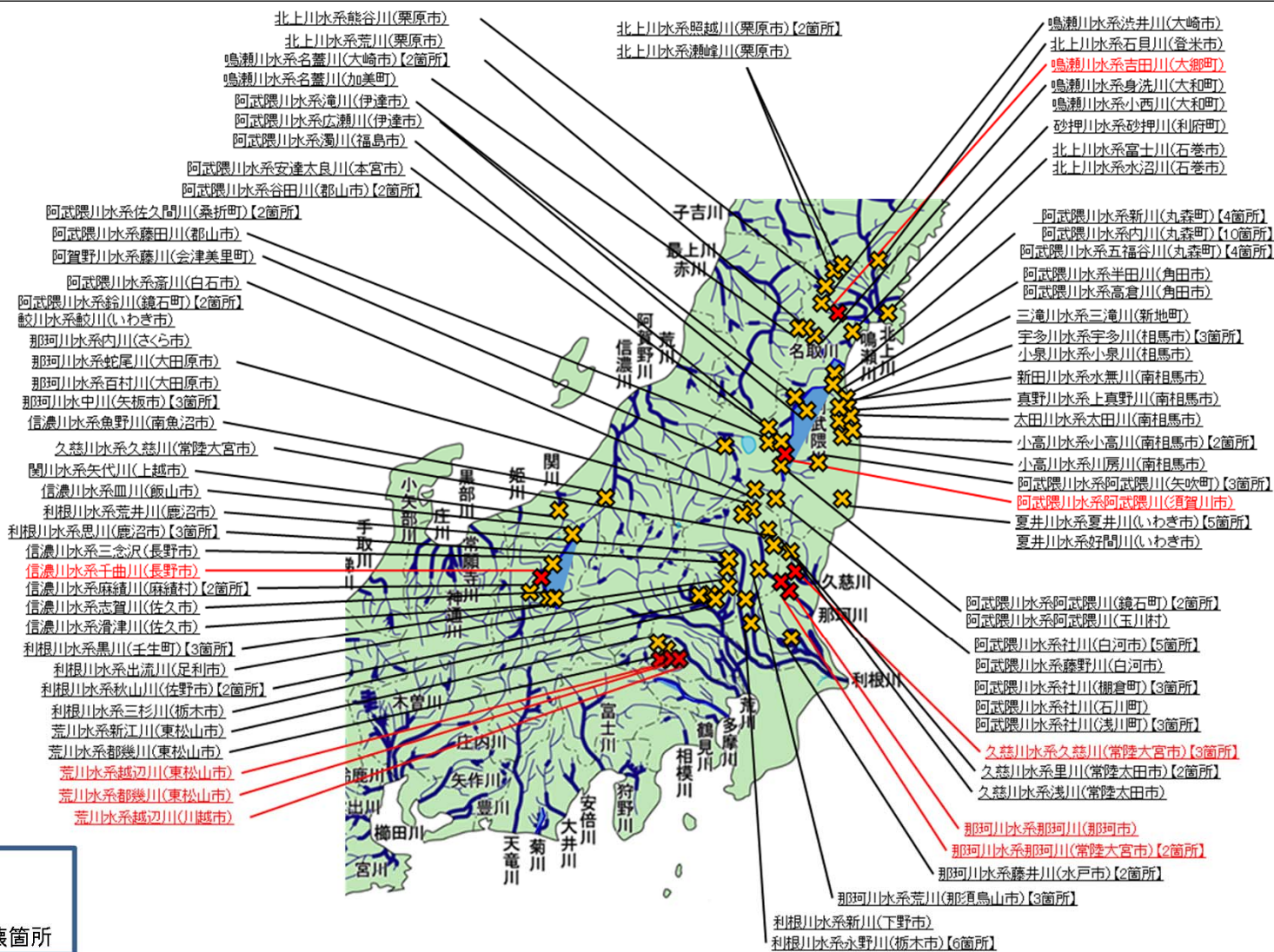
[県管理河川] 堤防決壊 7県20水系67河川128箇所

(宮城県4水系18河川36箇所、福島県11水系23河川49箇所、茨城県2水系4河川6箇所、栃木県2水系13河川27箇所、埼玉県1水系2河川2箇所、新潟県2水系2河川2箇所、長野県1水系5河川6箇所)

このように堤防決壊の状況からみても、**台風第19号は、平成30年7月豪雨の国管理河川1水系2箇所、県管理河川11水系25河川35箇所の計37箇所を大きく上回る140箇所、同時多発的かつ広範囲に及び甚大な被害が発生。**

国 12箇所  
 県 128箇所  
 計 140箇所

(11月13日時点)







# 台風第19号による土砂災害の発生状況

令和元年12月2日 現在

## 土砂災害発生件数

### 962件

- 土石流等：426件
- 地すべり：44件
- がけ崩れ：492件

### 【被害状況】

人的被害：死者 16名  
 行方不明者 1名  
 負傷者 10名

人家被害：全壊 42戸  
 半壊 58戸  
 一部損壊 201戸

10/13  
土石流等

いぐ まるもりまち  
宮城県伊具郡丸森町



10/12  
地すべり

とみおか たくみ  
群馬県富岡市内匠



10/14  
地すべり

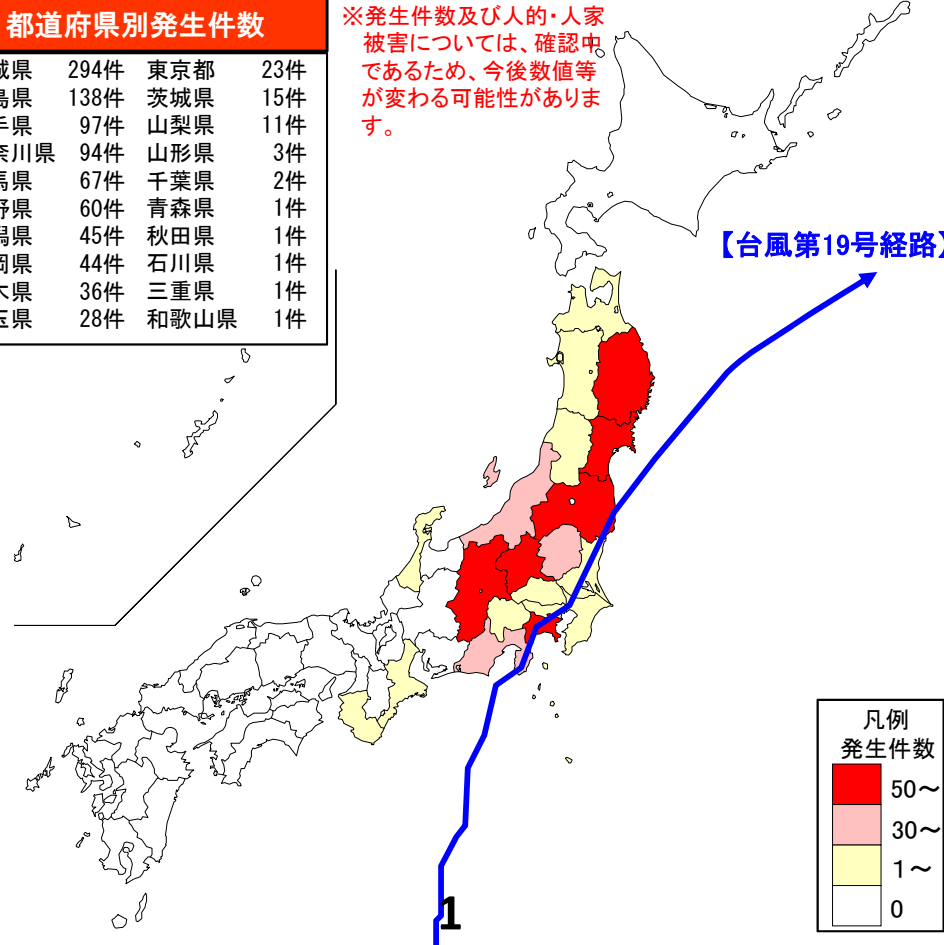
みょうこう しもひらまる  
新潟県妙高市大字下平丸



## 都道府県別発生件数

宮城県	294件	東京都	23件
福島県	138件	茨城県	15件
岩手県	97件	山梨県	11件
神奈川県	94件	山形県	3件
群馬県	67件	千葉県	2件
長野県	60件	青森県	1件
新潟県	45件	秋田県	1件
静岡県	44件	石川県	1件
栃木県	36件	三重県	1件
埼玉県	28件	和歌山県	1件

※発生件数及び人的・人家被害については、確認中であるため、今後数値等が変化する可能性があります。



10/13  
地すべり

いといがわ ひがしつか  
新潟県糸魚川市大字東塚



10/13  
がけ崩れ

あんなか しもまた  
群馬県安中市下間仁田



10/13  
土石流等

あがつまぐんつまごいむら  
群馬県吾妻郡嬭恋村



10/13  
土石流等

きたあずみぐんおたりむら  
長野県北安曇郡小谷村



# 台風第19号による土砂災害の特徴

令和元年12月2日現在

## 広域にわたる同時多発

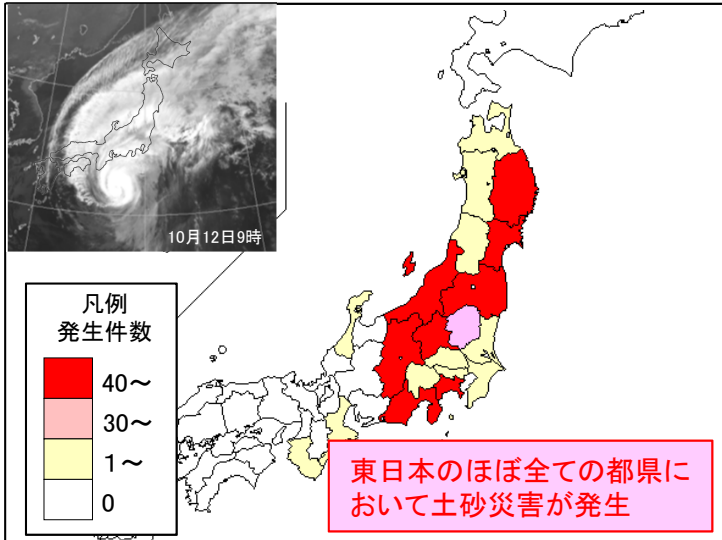
- 東日本を中心に20都県にわたって950件を超える土砂災害が発生
- このうち8県において、40件以上の土砂災害が発生しており、被害が広範

## 台風に伴う災害では過去最大

- 記録の残る台風により発生した土砂災害の中で最大の発生件数
- 土砂災害が100件以上発生した台風（過去10年）における平均値を大きく超過

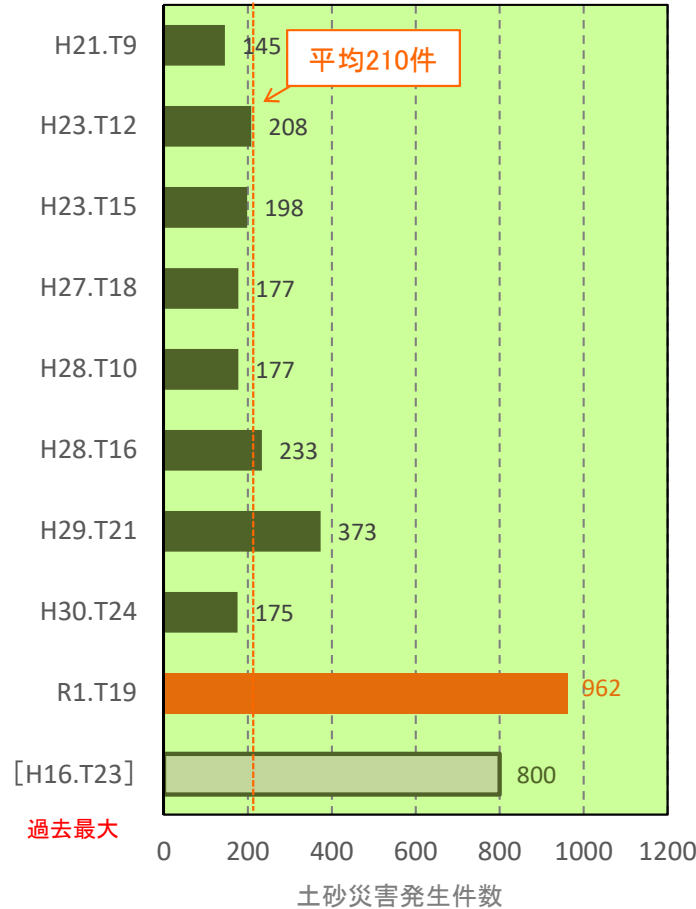
## 頻発する土砂・洪水氾濫

- H29九州北部豪雨、H30西日本豪雨に引き続き、土砂・洪水氾濫が発生
- 日本全国において同様の被害が発生する可能性を示唆



## 台風に伴う土砂災害の発生件数

過去10年間で100件以上の土砂災害が発生した台風災害(8件)と比較

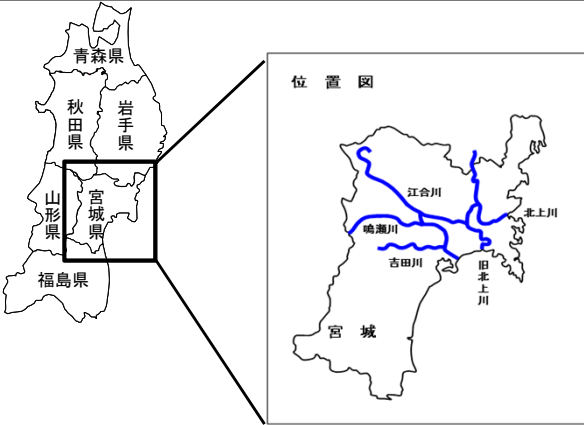


まるもり  
丸森町では、土砂・洪水氾濫により堆積した土砂等が障害となり、被害の把握や救援救助に時間を要した

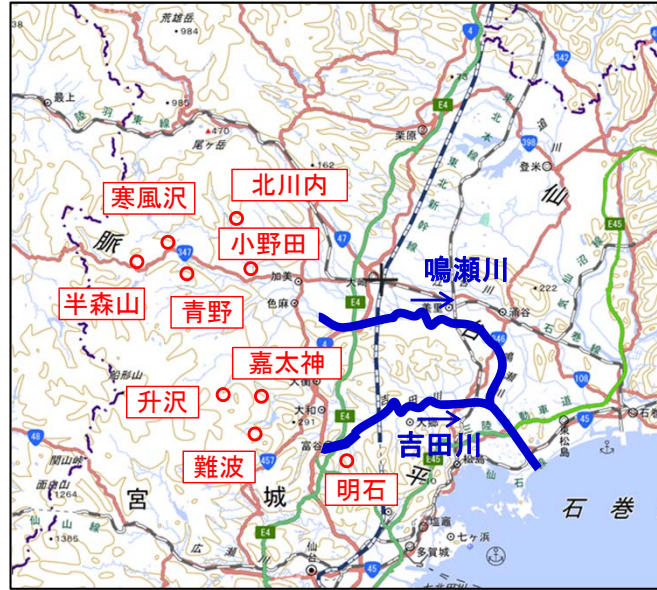


# なるせ よしだ 鳴瀬川水系吉田川における出水状況【宮城県】

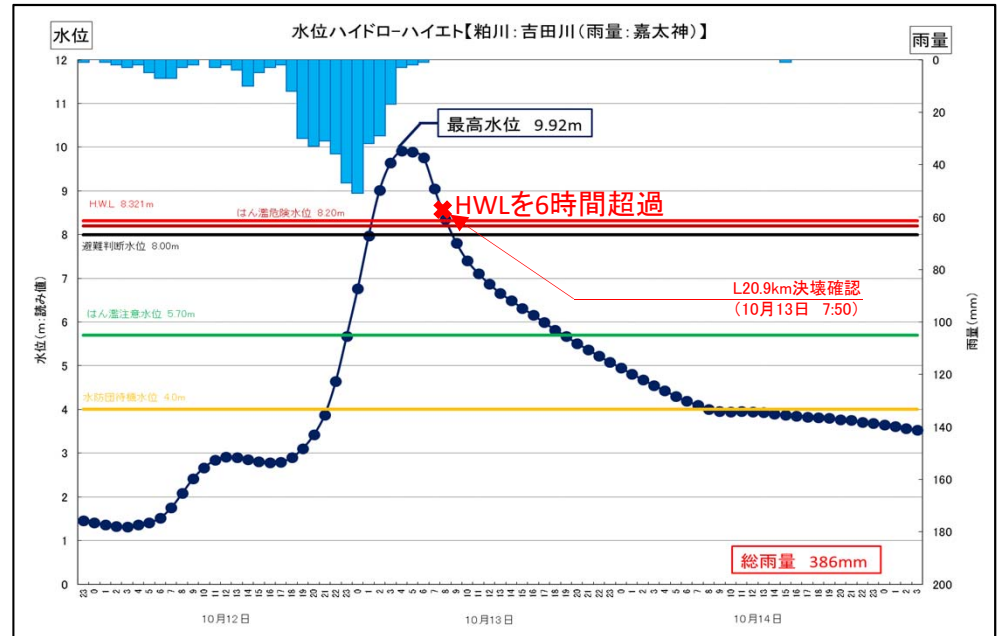
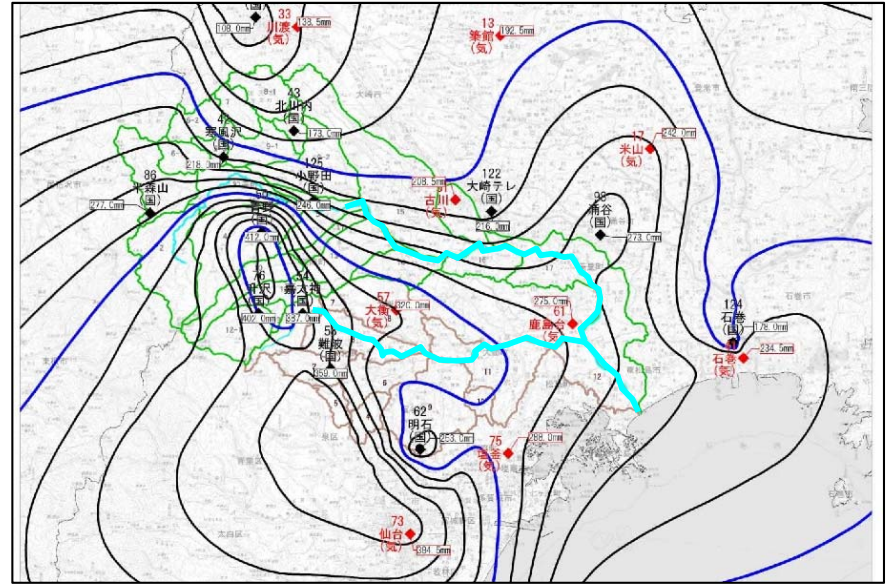
- 台風第19号の影響により東北地方の太平洋側で非常に激しい降雨となり、鳴瀬川水系流域5観測所において、既往1位を観測。
- 吉田川筋の観測所では6観測所において計画高水位を超過。



【雨量観測所位置図】



【等雨量線図】



# なるせ よしだ 鳴瀬川水系吉田川における被害状況【宮城県】

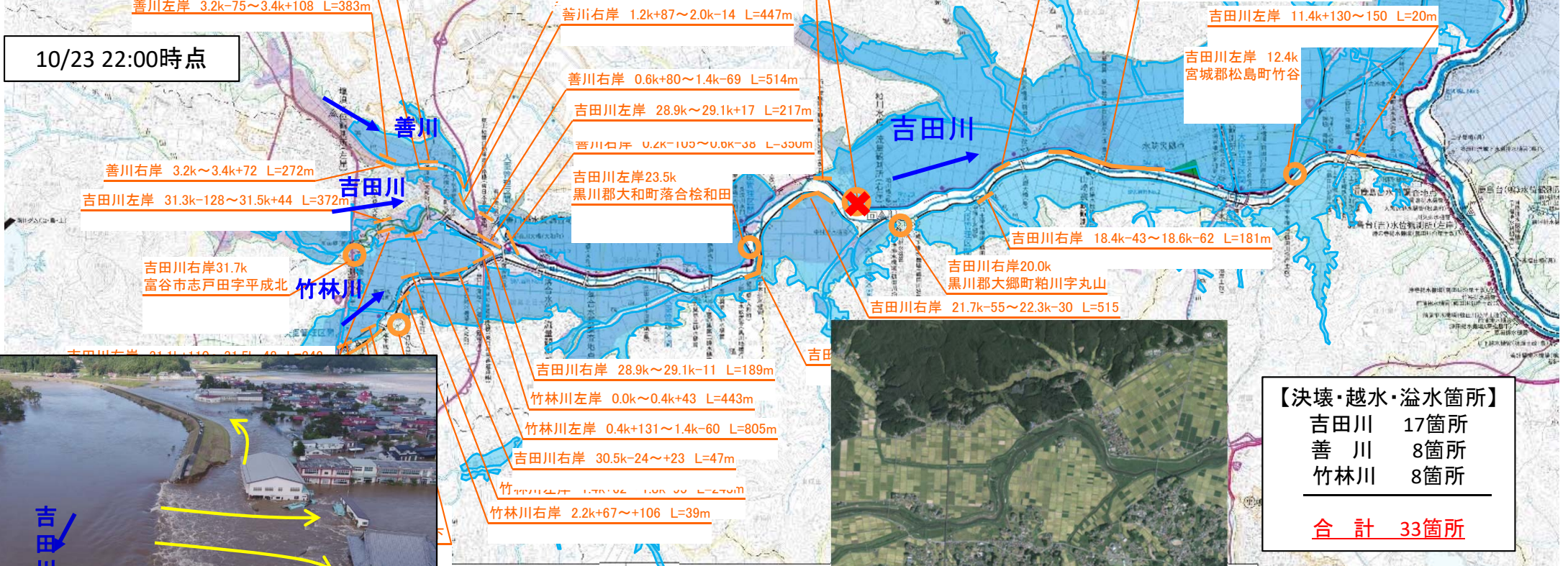
- 台風第19号の出水により、吉田川17箇所、善川8箇所、竹林川8箇所、合計33箇所の決壊・越水・溢水が発生。
- 大郷町粕川地区で堤防が決壊。



黒川郡大郷町粕川字伝三郎

凡例

- ✕ 堤防決壊箇所
- 越水・溢水箇所(巡視により確認)
- 越水・溢水箇所(痕跡調査により確認)
- 浸水範囲

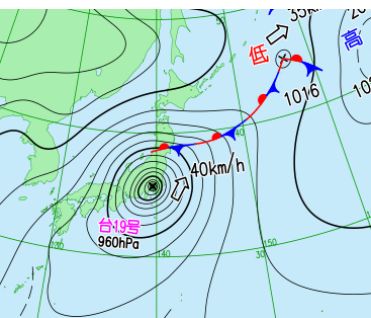


※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることある。

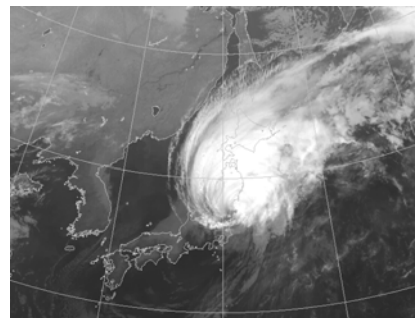
# 阿武隈川水系阿武隈川（上流）における出水状況【福島県】

- 台風第19号に伴う降雨では、須賀川・郡山・福島地点等の阿武隈川流域で24時間に200mmを超える雨が広範囲に及んだ。
- 基準観測所全てで氾濫危険水位を超過し、特に本宮・阿久津(郡山市)・須賀川地点においては計画高水位を超過した。

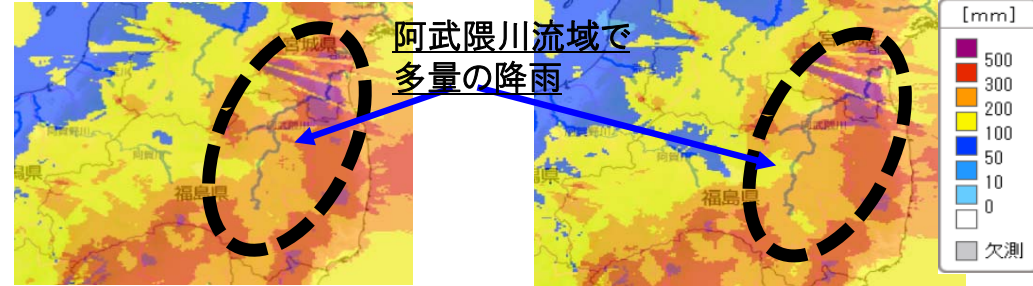
【天気図(10月12日21時頃)】



【気象衛星画像(10月13日1時頃)】

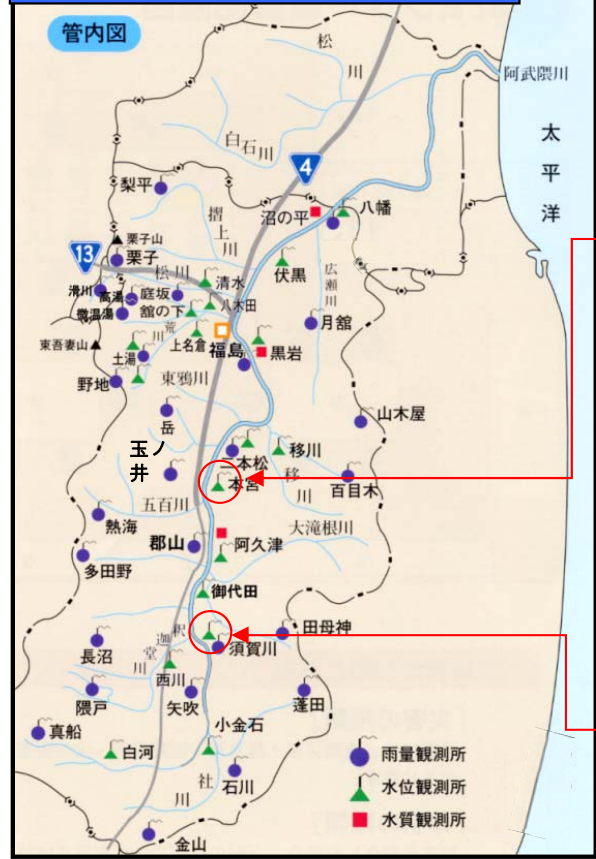


24時間雨量と48時間雨量のレーダ分布図が概ね一致⇒24時間に雨が集中

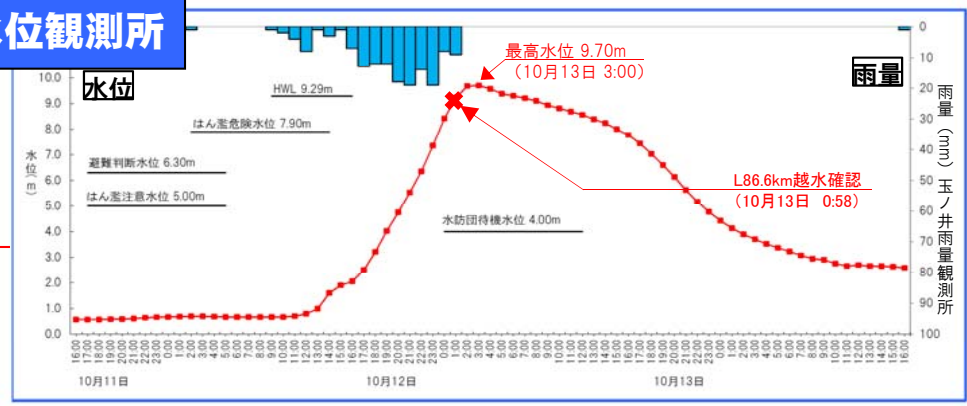


※ 累加レーダー雨量図は統一河川情報システムより  
 ※ 累加レーダー雨量図は統一河川情報システムより

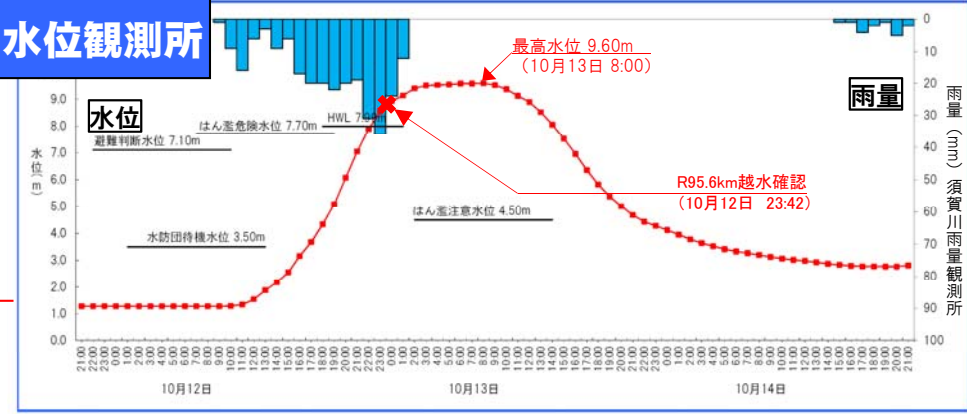
## 主要地点の水位



### 本宮水位観測所

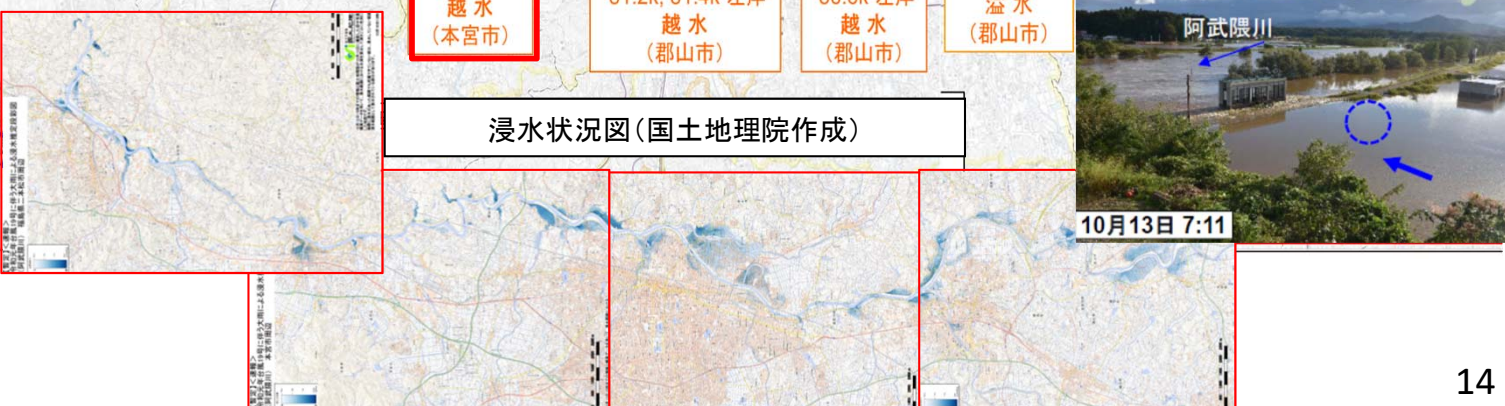
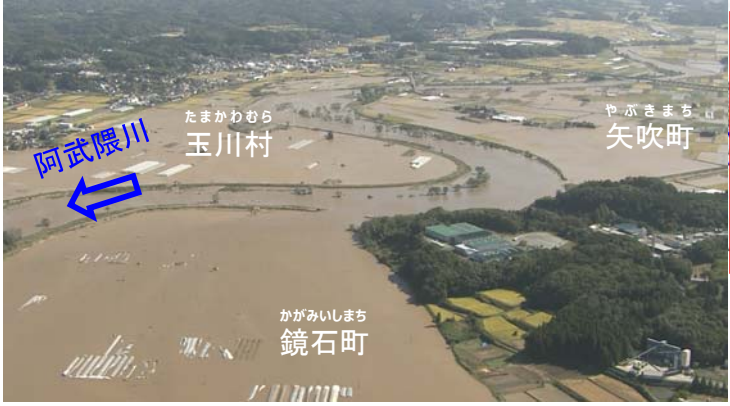


### 須賀川水位観測所



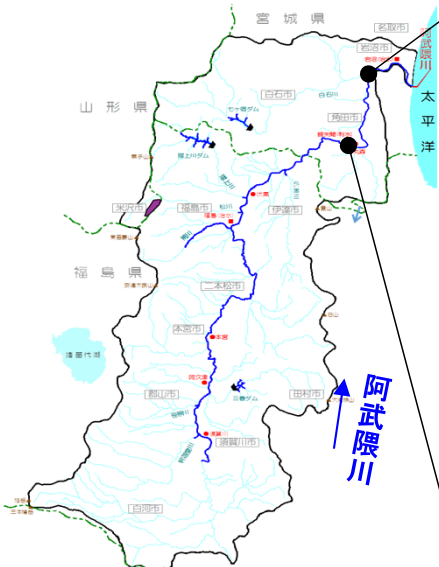
# あぶくま あぶくま 阿武隈川水系阿武隈川（上流）における被害状況【福島県】

○台風第19号の影響により阿武隈川上流では越水が11箇所、決壊が1箇所発生。



# 阿武隈川水系阿武隈川（下流）における出水状況【宮城県】

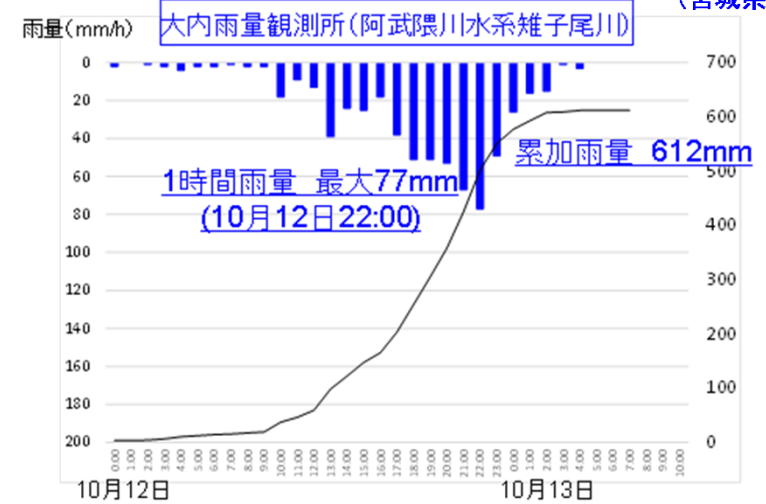
あぶくま  
阿武隈川  
流域図



あぶくま  
阿武隈川下流 阿武隈橋(8.1k付近)  
あぶくま  
宮城県岩沼市阿武隈地先



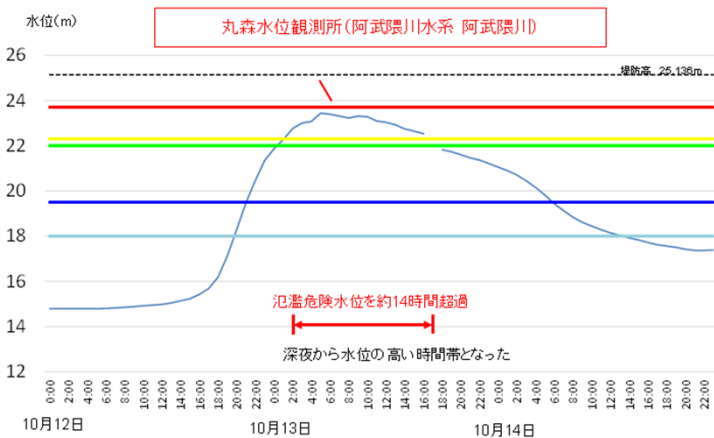
あぶくま  
阿武隈川下流 丸森橋(37.2k付近)



平常時  
宮城県伊具郡丸森町船場地先



高水時



※河川監視用カメラより撮影



# あぶくま あぶくま 阿武隈川水系阿武隈川（下流）における被害状況【宮城県】

- 台風19号に伴い宮城県丸森町を襲った豪雨により、阿武隈川水系内川流域において土砂・洪水氾濫が発生
- 内川流域内では、大小含め多数の崩壊が発生しており、五福谷川等の支川の比較的勾配の緩い区間において土砂が河道を完全に埋塞し、大量の土砂が氾濫
- 土砂・洪水氾濫発生個所では河道が土砂で埋塞するとともに、上流部には不安定土砂の堆積が認められることから、今後、中小出水による土砂流出により、再度氾濫被害を発生させる恐れ

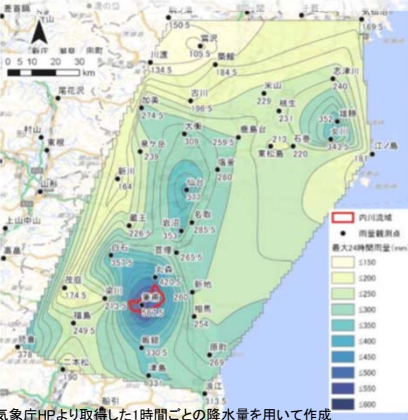


## 内川流域における土砂・洪水氾濫発生状況

上流域の崩壊発生状況



【最大24時間雨量の分布】



広範囲にわたり堆積する大量の土砂

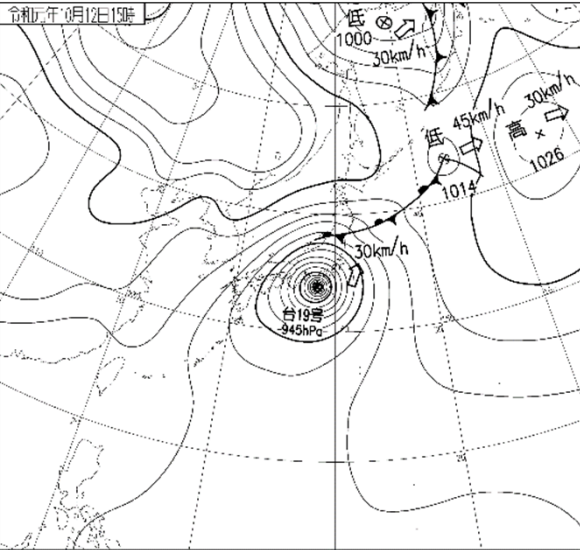


堆積土砂により一階部分が埋没



# しなのちくま 信濃川水系千曲川における出水状況【長野県】

○台風第19号本体が上陸する前から活発に雨雲が断続的に生じ、広範囲で強い雨が降り続けた。その結果、各地で観測記録を塗り替える大雨になり、特に千曲川流域の東域に300mmを越える大雨となり、千曲川本川で大出水となった。



【10月12日15時 天気図】

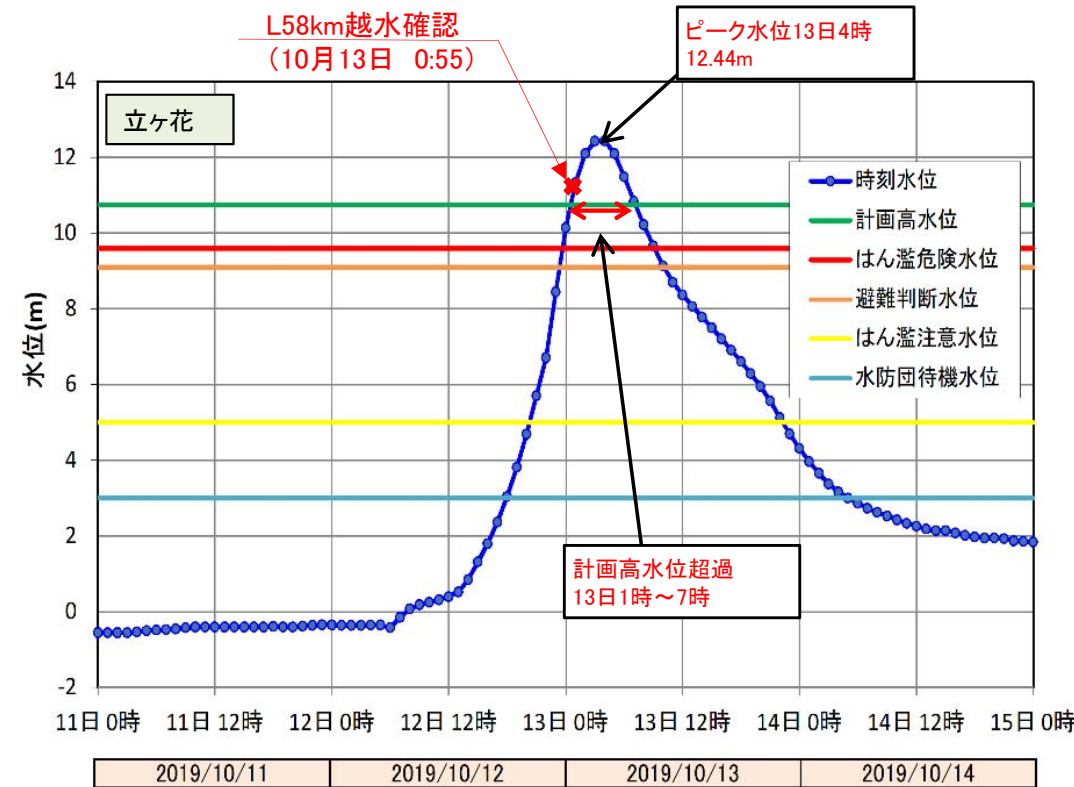


【観測所位置図】

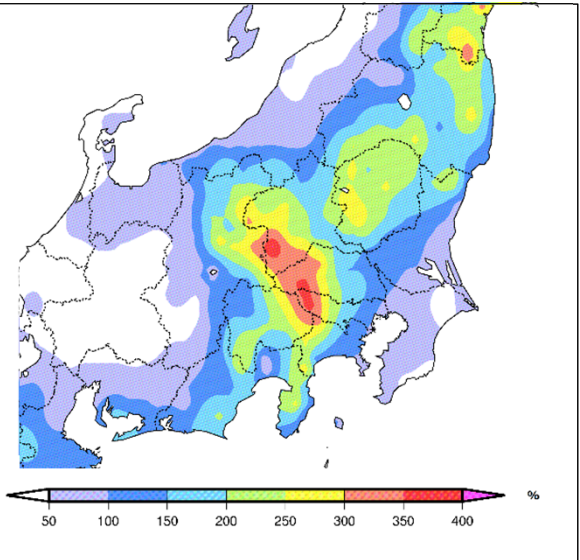
千曲川流域													
野沢温泉 長野県立野沢温泉高等学校	飯山 飯山市立飯山高等学校	信濃町 信濃町立信濃町中学校	笠岳 高山市立笠岳中学校	長野 長野市立長野中学校	聖高原 聖高原町立聖高原中学校	菅平 上田市立菅平中学校	上田 上田市立上田中学校	豊後湯 上田市立豊後湯中学校	立科 立科町立立科中学校	軽井沢 軽井沢町立軽井沢中学校	佐久 佐久市立佐久中学校	北栢木 北栢木町立北栢木中学校	野辺山 野辺山町立野辺山中学校
208mm	136mm	190mm	335mm	142mm	250mm	296mm	154mm	333mm	271mm	324mm	311mm	395mm	172mm

犀川流域						
鬼無里 長野県立鬼無里高等学校	信州新町 長野県立信州新町高等学校	大町 大町市立大町中学校	穂高 安曇野市立穂高中学校	松本 松本市立松本中学校	松本今井 松本市立松本今井中学校	上高地 松本市立上高地中学校
157mm	157mm	98mm	102mm	149mm	130mm	95mm

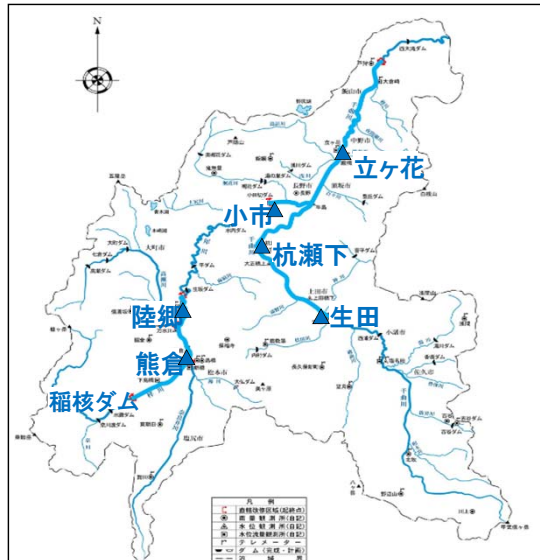
【千曲川・犀川流域の降水量】  
(累計雨: 令和元年10月12日 1:00~10月14日24:00)



【各観測所のハイドログラフ】



【総降水量の10月降水量平年比の分布図 (10月10日~13日)】

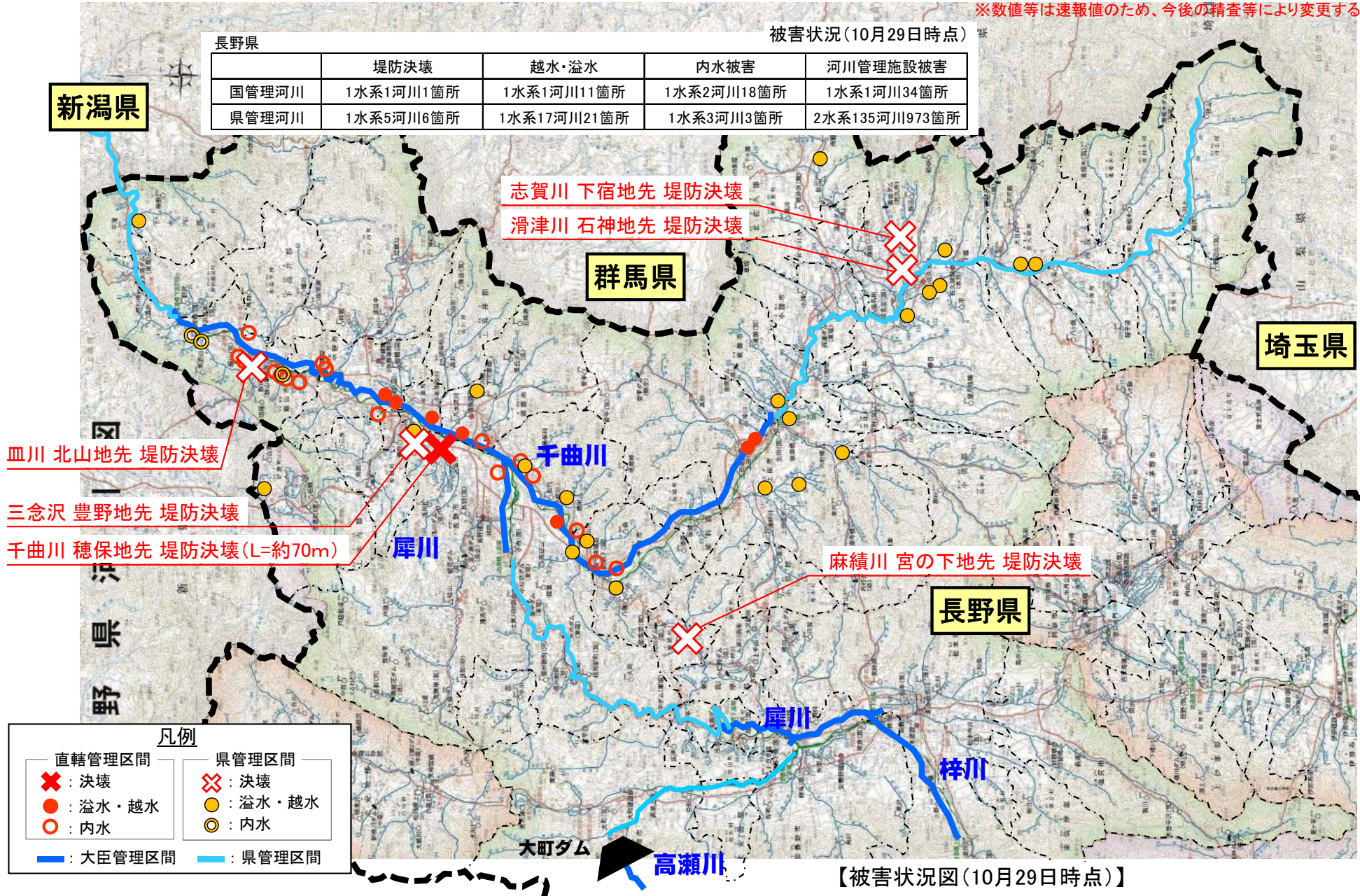


【水位観測所位置図】

# 信濃川水系千曲川における被害状況【長野県】

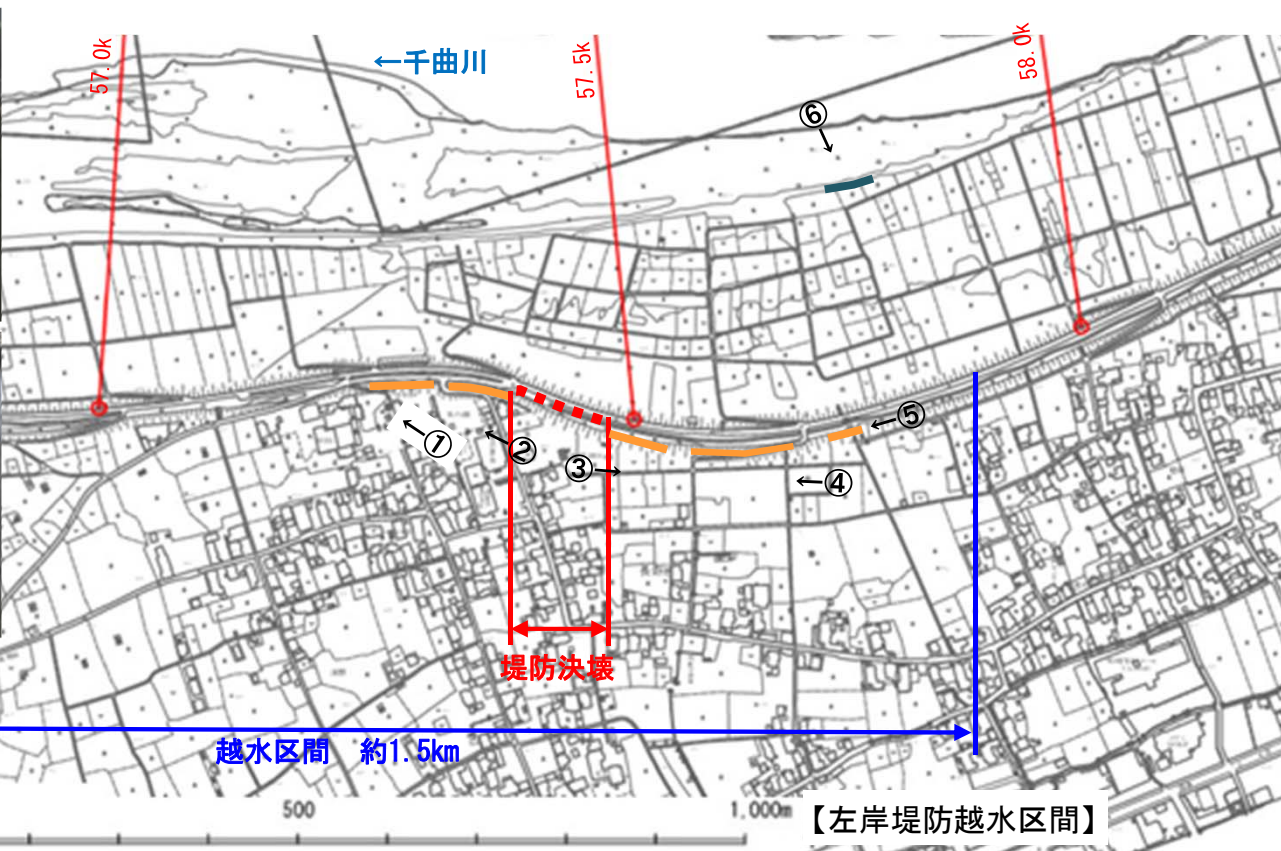
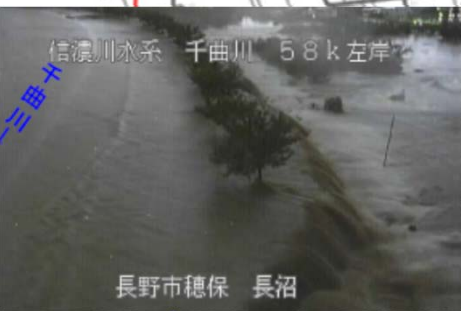
○台風第19号により、長野県内において、国管理河川の千曲川において堤防決壊が発生。県管理河川では皿川及び三念沢、志賀川、滑津川、麻績川にて堤防決壊が発生し、浸水被害をもたらした。

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。



# しなの ちくま 信濃川水系千曲川における被害状況【長野県】

○千曲川左岸57.5k付近の堤防は約70mにわたり決壊した。堤防決壊地点を含む約1.5kmで越水し、裏法崩れ等が発生している。  
○堤防決壊箇所に設置されたCCTVカメラにより10月13日0:55頃越水確認、同日2:15以降、CCTVカメラが倒壊監視不能。



凡 例	
<span style="color: red;">- - -</span>	堤防決壊
<span style="color: orange;">—</span>	裏法崩れ
<span style="color: blue;">—</span>	護岸欠損



⑥護岸欠損 11月2日 9:20撮影



⑤裏法崩れ 10月13日 9:50撮影



①決壊地点下流側の裏法崩れ  
10月13日 14:00撮影



②決壊地点下流側の裏法崩れ  
10月20日 16:00撮影



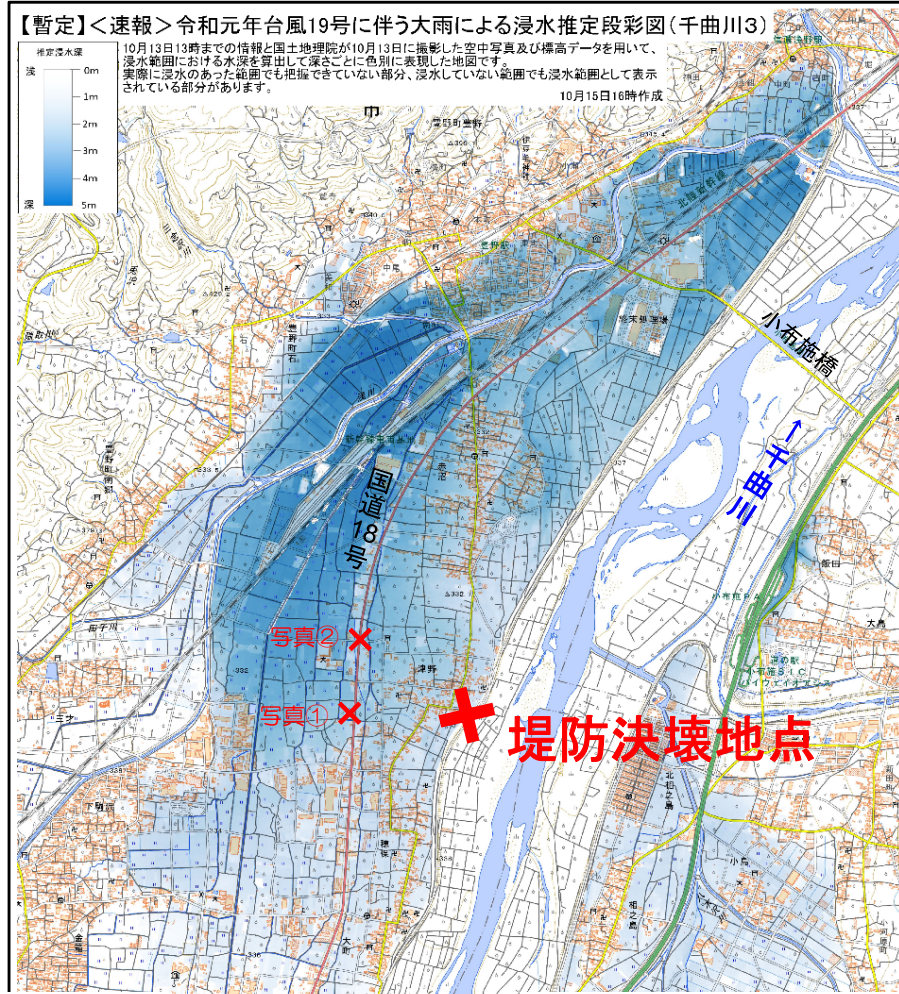
③決壊地点上流の裏法崩れ  
10月13日 14:50撮影



④決壊地点上流の裏法崩れ  
10月31日 15:40撮影

# しなの ちくま 信濃川水系千曲川における被害状況【長野県】

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。



## 【長野県の被害状況 (11月11日10:00現在) :長野県災害対策本部】

人的被害(人)	死者	5
	行方不明者	0
	負傷者	重傷 7 軽傷 130
計		142
住家被害(世帯)	全壊	863
	半壊	2,002
	一部損壊	2,522
	上記以外	床上浸水 565 床下浸水 2,220
	計	8,172



【浸水範囲図  
:千曲川河川事務所】

【浸水推定段彩図  
:国土地理院】

# しなの ちくま 信濃川水系千曲川における被害状況【長野県】

○千曲川左岸104k付近の堤防が延長約300mにわたり欠損した。(図-2、図-3)  
また、千曲川橋梁(上田電鉄)左岸側橋台が被災をうけ落橋した。(図-2)



図-1 台風第19号出水前の状況



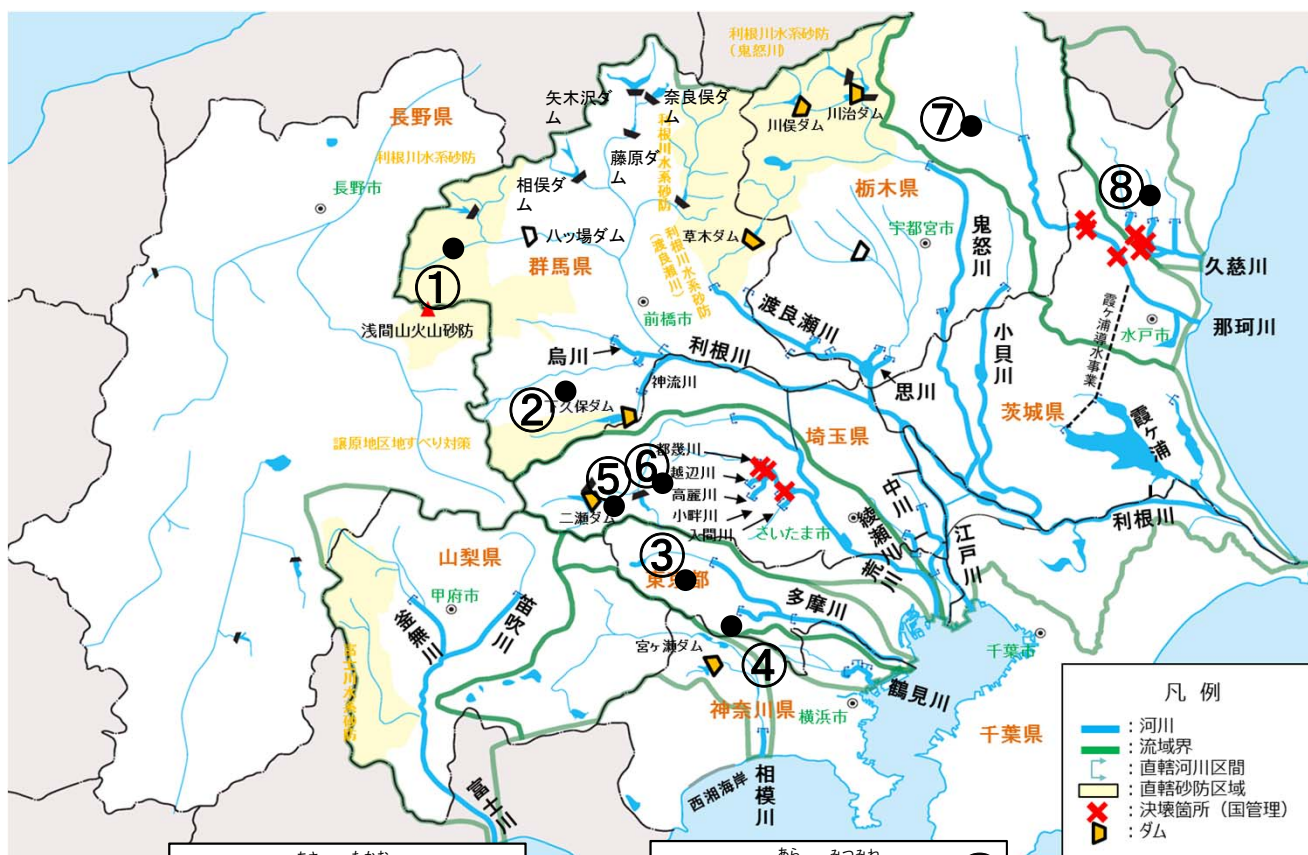
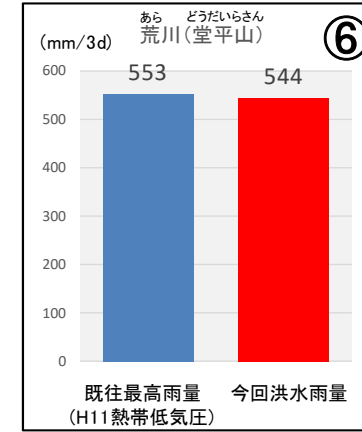
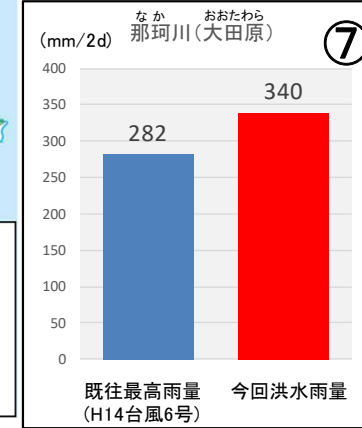
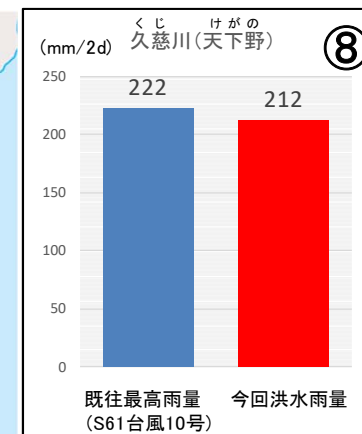
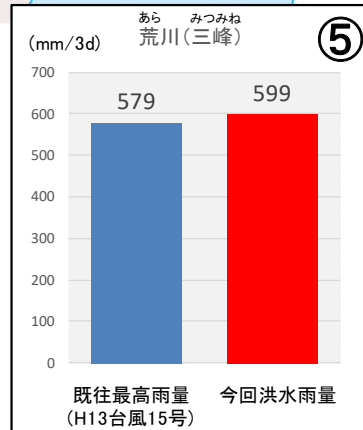
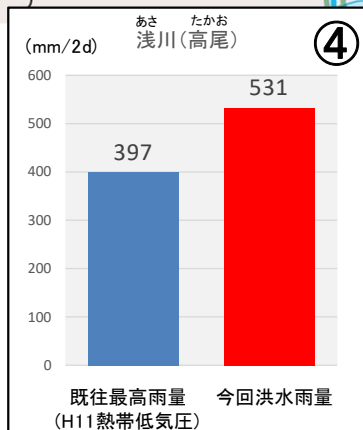
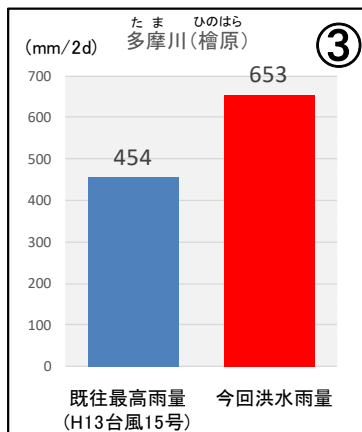
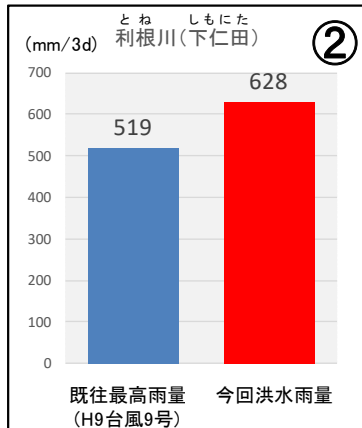
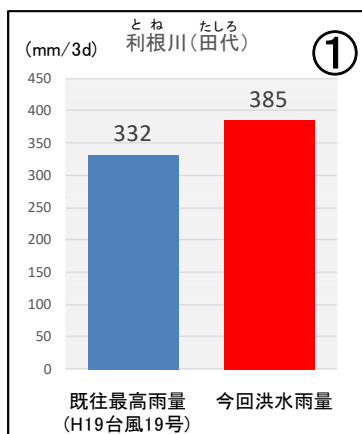
図-2 2019.10.14撮影



図-3 2019.10.14撮影

# 関東地方の出水状況

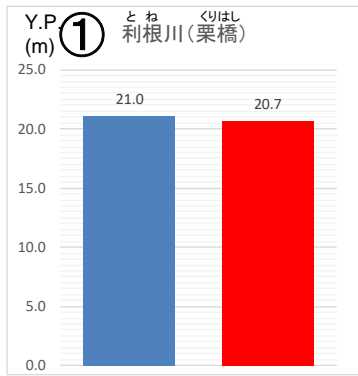
○関東地方では、台風第19号の降雨により、多くの雨量観測地点で既往最高雨量となりました。



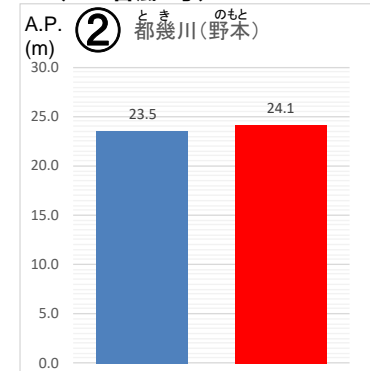
※数値等は速報値のため、修正する可能性があります。

# 関東地方の出水状況

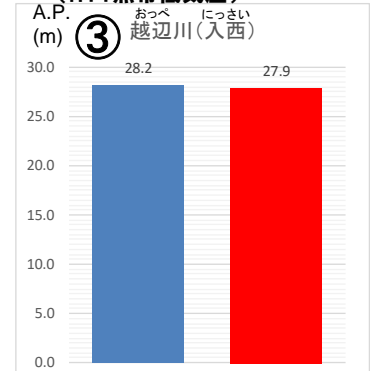
○関東地方整備局管内では、台風第19号の降雨により、多くの水位観測地点で既往最高水位となりました。



既往最高 (S22台風9号) 今回洪水



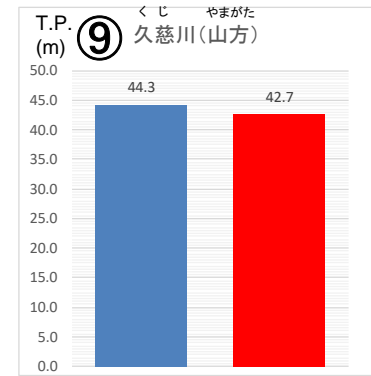
既往最高 (H11熱帯低気圧) 今回洪水



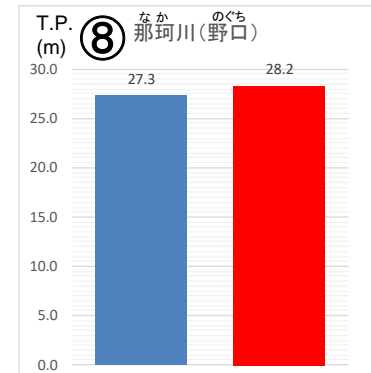
既往最高 (S52熱帯低気圧) 今回洪水



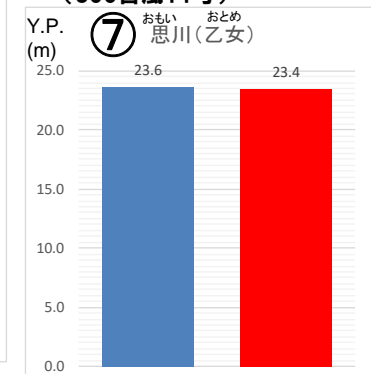
▲ 水位観測所



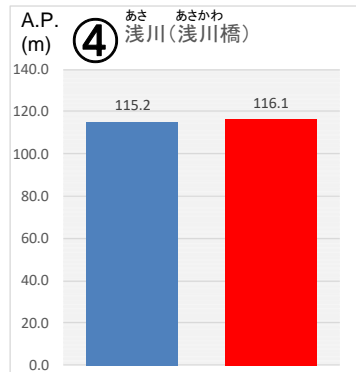
既往最高 (S16台風8号) 今回洪水



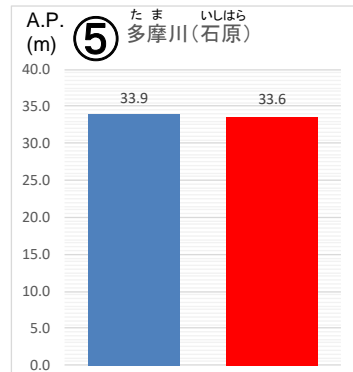
既往最高 (S33台風11号) 今回洪水



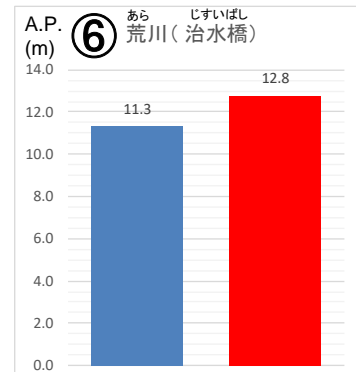
既往最高 (H27関東東北豪雨) 今回洪水



既往最高 (H20集中豪雨) 今回洪水



既往最高 (S34台風7号) 今回洪水



既往最高 (H11熱帯低気圧) 今回洪水

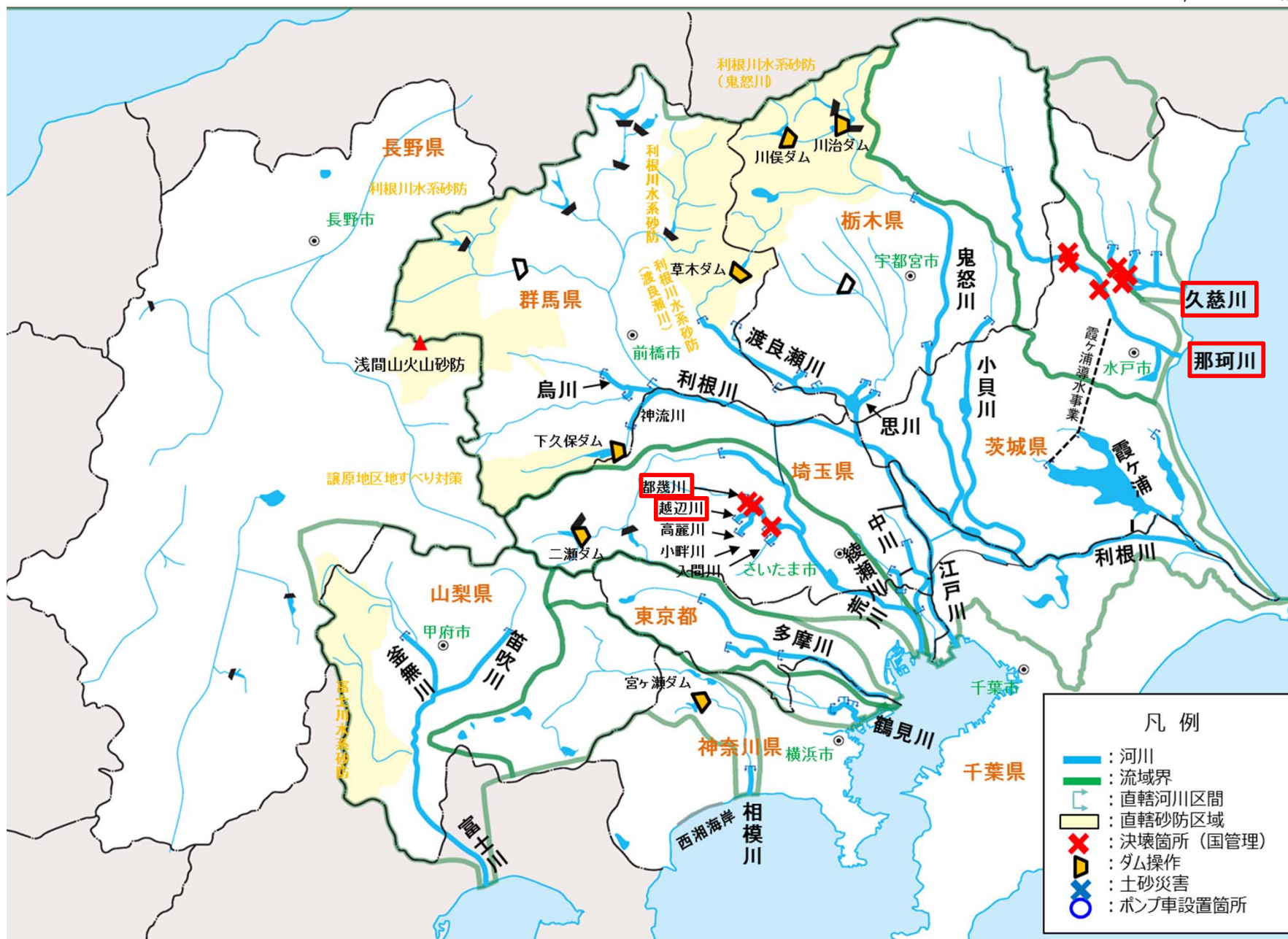
※水位は各河川の工事基準面からの高さで整理しています。※※数値等は速報値のため、修正する可能性があります。



# 関東地方の被害状況

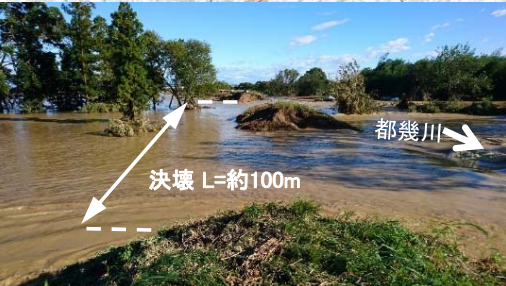
○関東地方の主な被災状況は、国管理河川で4河川9箇所で決壊。8河川16箇所で越水・溢水が発生。

11/5 13:00時点

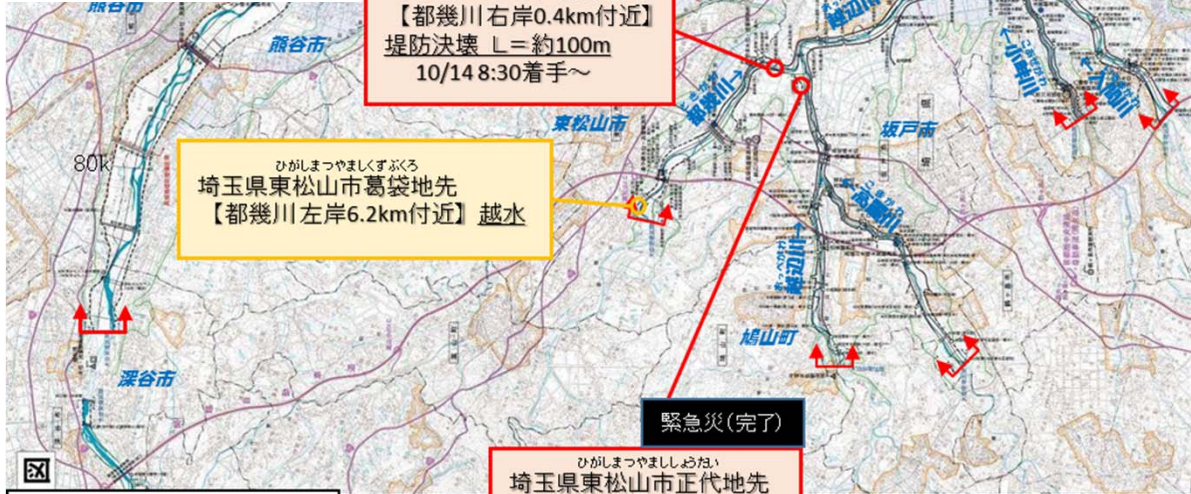


# 荒川水系越辺川・都幾川における被害状況【埼玉県】

○荒川水系越辺川・都幾川では堤防が3箇所決壊する被害がありました。



撮影日2019.10.13 12時00分頃

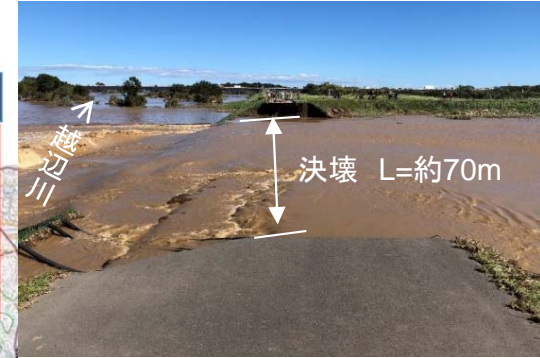


緊急災 (完了)  
埼玉県東松山市早俣地先  
【都幾川右岸0.4km付近】  
堤防決壊 L=約100m  
10/14 8:30着手

埼玉県東松山市葛袋地先  
【都幾川左岸6.2km付近】越水

緊急災 (完了)  
埼玉県東松山市正代地先  
【越辺川左岸7.6km付近】  
堤防決壊 L=約20m  
10/13 22:30着手  
10/19 21:20完了

浸水被害箇所  
 : 堤防決壊箇所  
 : 越水・堤防欠損箇所



撮影日2019.10.13 12時10分頃



荒川水系  
越辺川右岸0k付近

荒川水系  
都幾川右岸0.4k付近

荒川水系  
越辺川左岸7.6k付近



# 久慈川水系久慈川における被害状況【茨城県】

○久慈川水系久慈川では堤防が3箇所決壊する被害がありました。



**浸水被害箇所**  
 □ : 堤防決壊箇所  
 □ : 越水・堤防欠損箇所



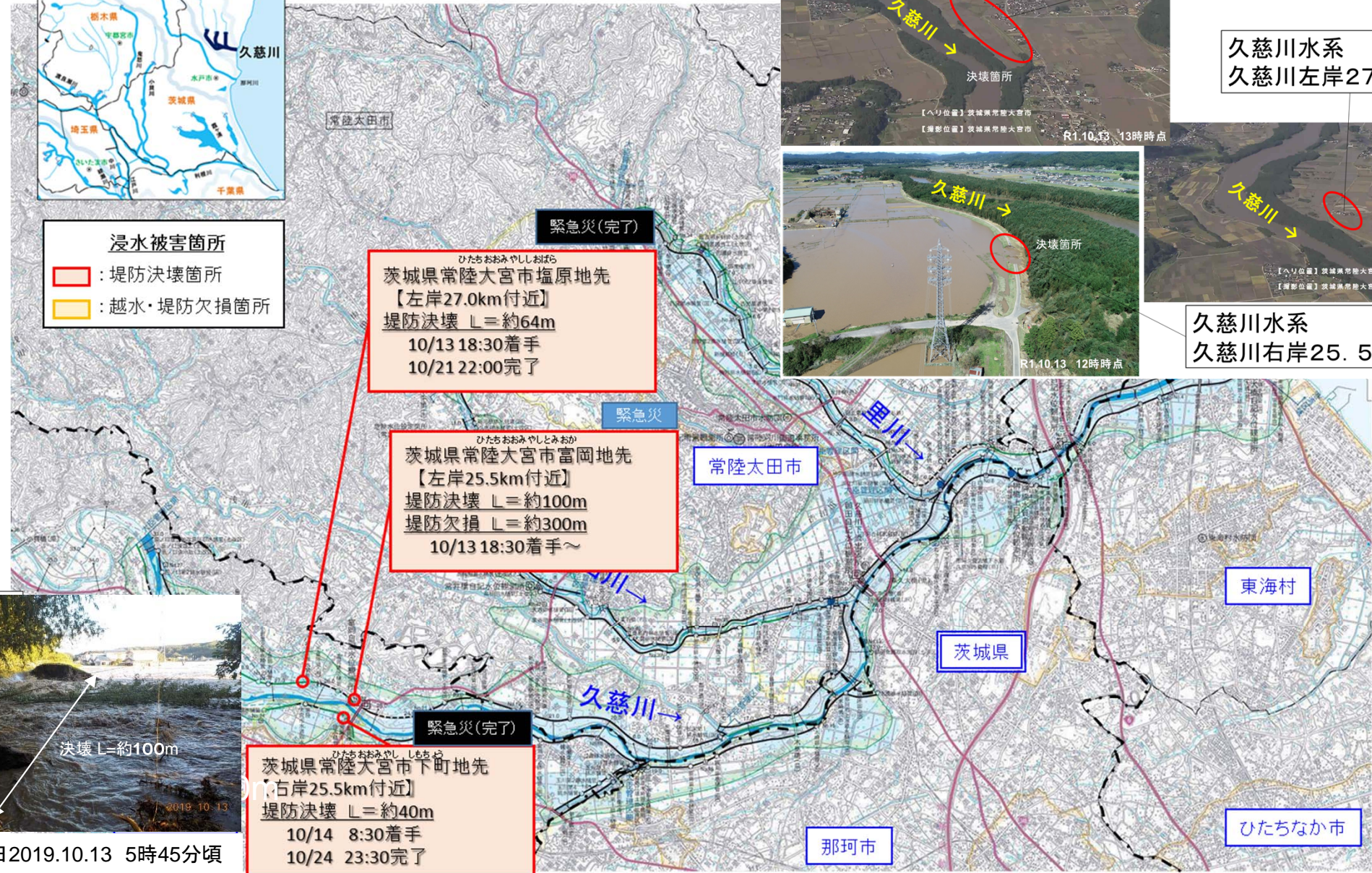
久慈川水系  
久慈川左岸25.5k付近



久慈川水系  
久慈川左岸27.0k



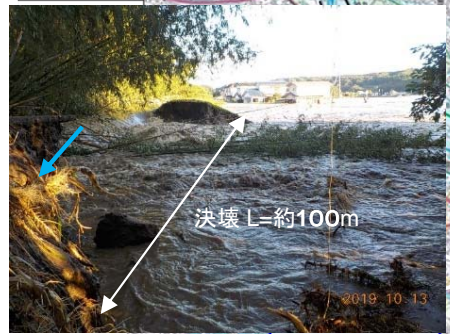
久慈川水系  
久慈川右岸25.5k付近



**緊急災(完了)**  
 ひたちのおみやよしおばら  
 茨城県常陸大宮市塩原地先  
 【左岸27.0km付近】  
 堤防決壊 L=約64m  
 10/13 18:30着手  
 10/21 22:00完了

**緊急災**  
 ひたちのおみやよしとみおか  
 茨城県常陸大宮市富岡地先  
 【左岸25.5km付近】  
 堤防決壊 L=約100m  
 堤防欠損 L=約300m  
 10/13 18:30着手～

**緊急災(完了)**  
 ひたちのおみやよしとみおか  
 茨城県常陸大宮市下町地先  
 【右岸25.5km付近】  
 堤防決壊 L=約40m  
 10/14 8:30着手  
 10/24 23:30完了



撮影日2019.10.13 5時45分頃

# 那珂川水系那珂川における被害状況【茨城県】

○那珂川水系那珂川では堤防が3箇所決壊する被害がありました。



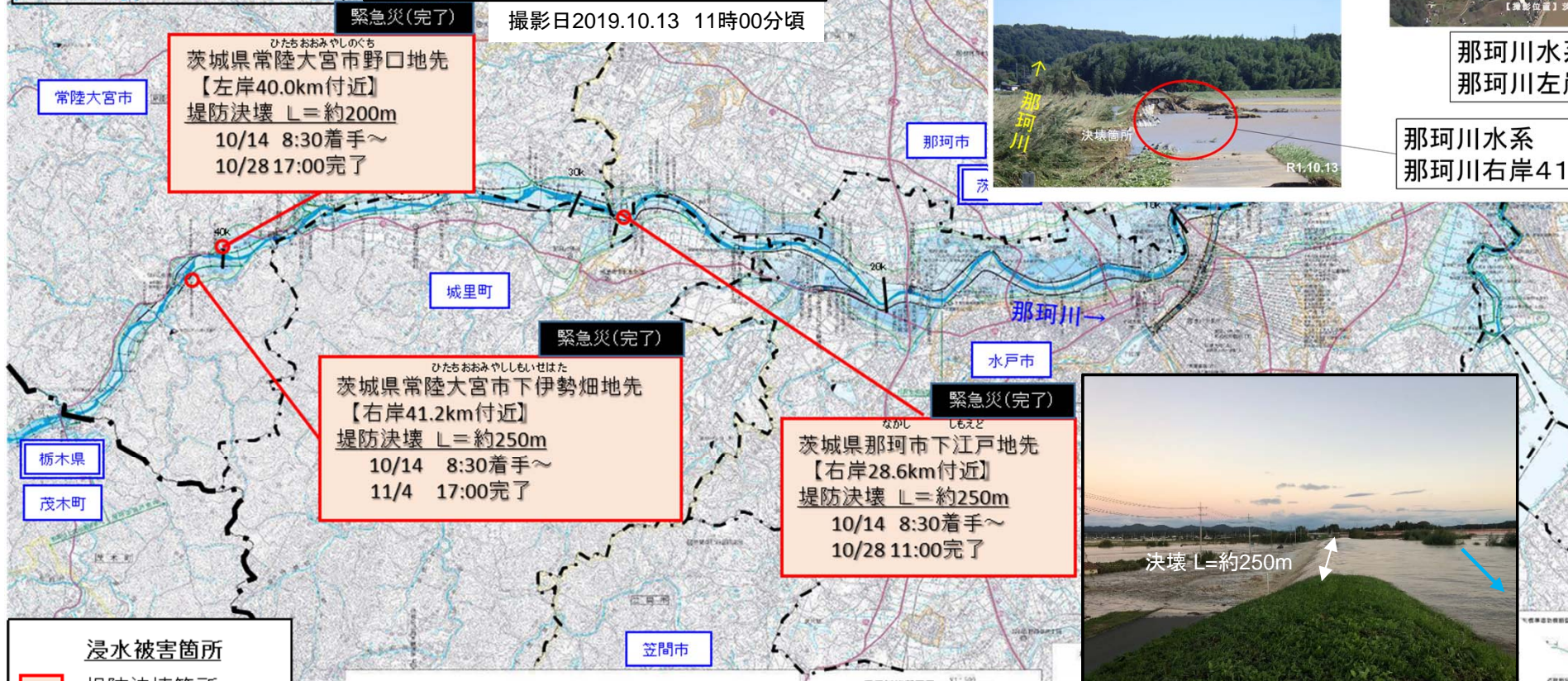
那珂川水系  
那珂川右岸28.6k付近



那珂川水系  
那珂川左岸40.0k付近



那珂川水系  
那珂川右岸41.2k付近



撮影日2019.10.13 6時15分頃

# 台風第19号による一般被害の状況

○東北や関東を中心に、12月12日時点で死者・行方不明者87名等の人的被害のほか、住家の全壊3,067棟、半壊24,948棟、一部破損26,039棟、床上浸水11,408棟、床下浸水22,991棟の多数の被害が発生。  
 ○平成30年7月豪雨では土砂災害による被災が多かったため、全壊棟数は平成30年7月豪雨が多かったものの、**台風第19号は、住家被害全体が平成30年7月豪雨に比べて大幅に上回る大災害\***となった。

○人的・住家被害(令和元年12月12日現在)

都道府県名	人的被害				住家被害				
	死者	行方不明者	重傷	軽傷	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟
岩手県	3		4	3	41	741	1,543	46	115
宮城県	19	2	7	35	288	2,836	2,465	1,908	12,668
福島県	30		1	56	1,339	11,230	5,697	2,611	463
茨城県	2	1		20	146	1,566	1,382	26	349
栃木県	4		4	19	77	4,292	6,869	1,452	1,058
群馬県	4		1	6	21	302	402	28	174
埼玉県	3		1	32	132	412	593	2,360	3,281
千葉県	1		1	23	14	69	1,698	25	70
東京都	1			11	27	174	460	816	706
神奈川県	9		2	41	53	722	847	971	524
長野県	5		7	137	917	2,580	3,478	15	1,718
静岡県	2		2	5	7	9	449	1,010	1,424
その他	1		9	49	5	15	156	140	441
合計	84	3	39	437	3,067	24,948	26,039	11,408	22,991

上記のほか、現時点で、災害との関連が確認されている死者1名

○避難所避難者数

10/13 5:00時点;237,008人  
(12/12現在、786人)

○電力

10/13 0:00時点;約521,540戸  
(11/7復旧済み)

○水道

総断水戸数;約166,152戸  
(11/15復旧済み)

○鉄道

10/13 3:30時点;83事業者  
254路線運転休止  
(12/12現在、  
5事業者6路線運転休止)

○高速道路

10/13 4:30時点;13路線15区間  
被災による通行止め  
(10/23復旧済み)

※平成30年7月豪雨(H30.11.6時点)  
 人的被害 死者224名、行方不明者8名  
 住家被害 全壊6,758棟、半壊10,873棟、一部損壊3,829棟  
 床上浸水8,567棟、床下浸水21,872棟

# 台風第19号による被害状況



▲ ちくま千曲川の氾濫による浸水被害（長野県長野市）



▲ 家を埋めた流出土砂（宮城県丸森町）

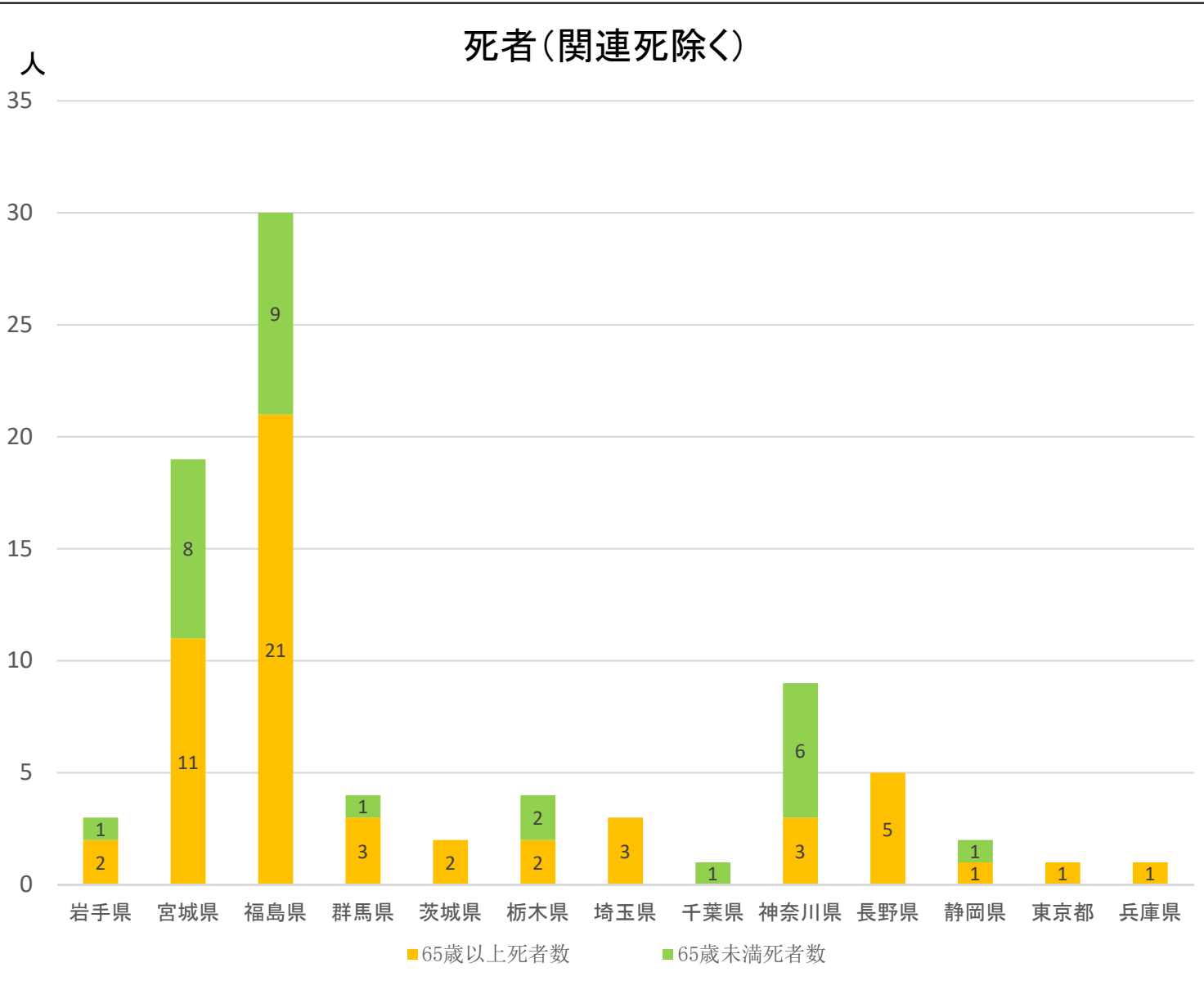


▲ 家屋や車両の浸水被害（福島県郡山市）

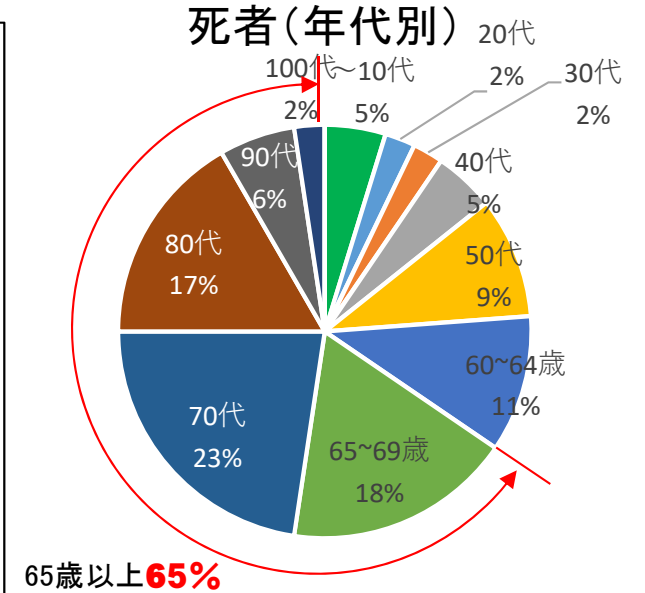
# 台風第19号による被害の特徴

○台風第19号による死者は84名(12月12日現在:災害関連死を除く)。  
65歳以上の高齢者が約65%を占めており、約74%の方が水害で亡くなられている。

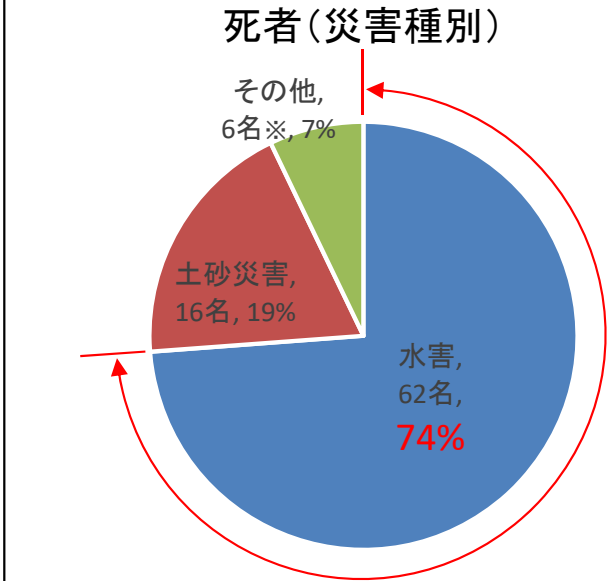
死者(関連死除く)



死者(年代別)



死者(災害種別)

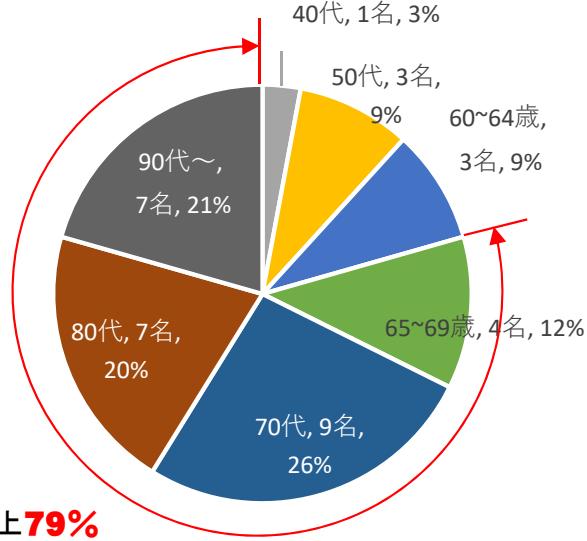


# 台風第19号による被害の特徴

○また自宅で亡くなられた方34名のうち、79%が65歳以上の高齢者。  
屋外で亡くなられた方50名のうち、車での移動中が約半数超(27名)を占める。

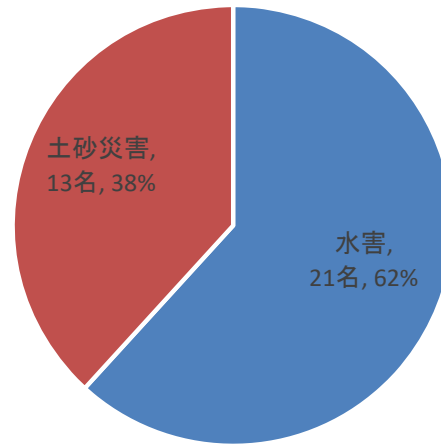
自宅

自宅での死者



65歳以上**79%**

自宅での死者(災害種別)



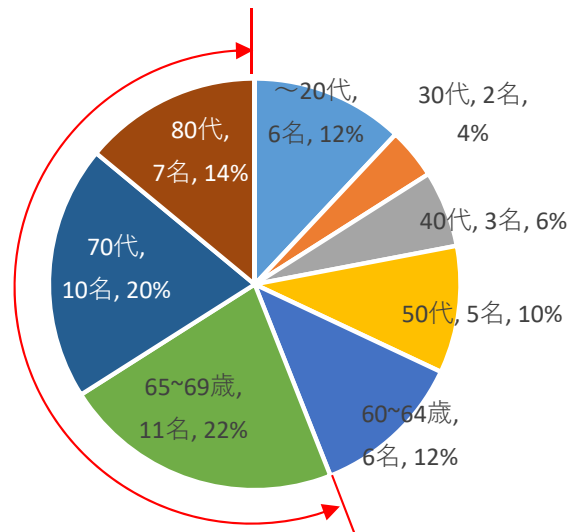
- ・土砂災害は自宅での被災が多い
- ・高齢者の比率が高い



**高齢者が避難  
できていない**

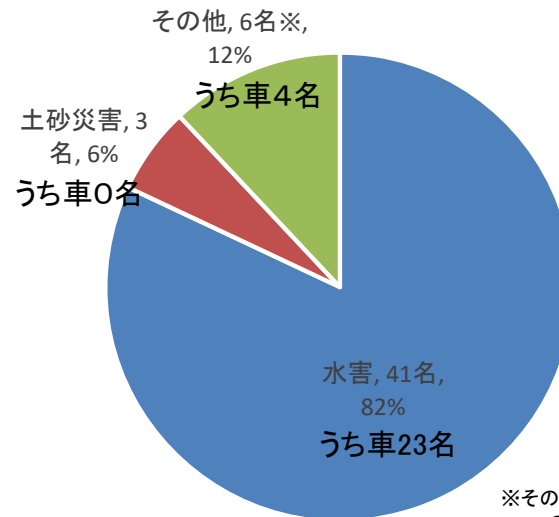
屋外

屋外での死者(50名)



65歳以上**56%**

屋外での死者(50名)(災害種別)



- ・水害は屋外での被災が多い
- ・水害の死者の半数は車移動中
- ・50代以下の比率が高い



**早期の避難  
車での避難  
浸水時の避難行動**

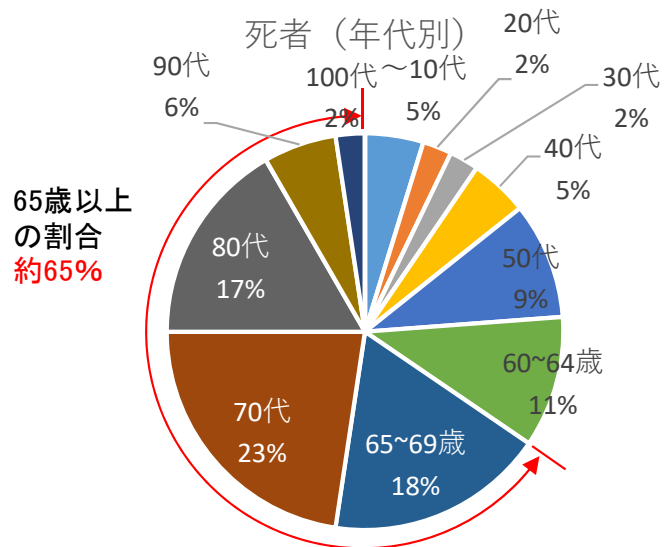
※その他に区分する死者は、車移動中の道路陥没箇所への転落による死者3名及び強風による死者3名



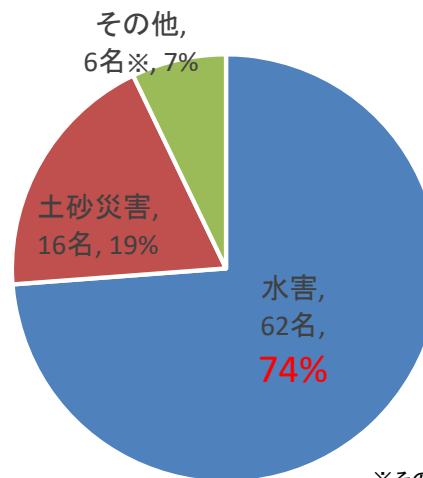
# 「令和元年台風第19号」と「平成30年7月豪雨」との比較

- **台風第19号は**平成30年7月豪雨と比べて、河川氾濫や住家被害は大きかったが、**死者数は半分以下**であった。
- 災害種別から比較すると、**平成30年7月豪雨は土砂災害による死者数が54%、台風第19号は水害による死者数が74%**となり、大きく異なっていた。

令和元年台風第19号：死者84人

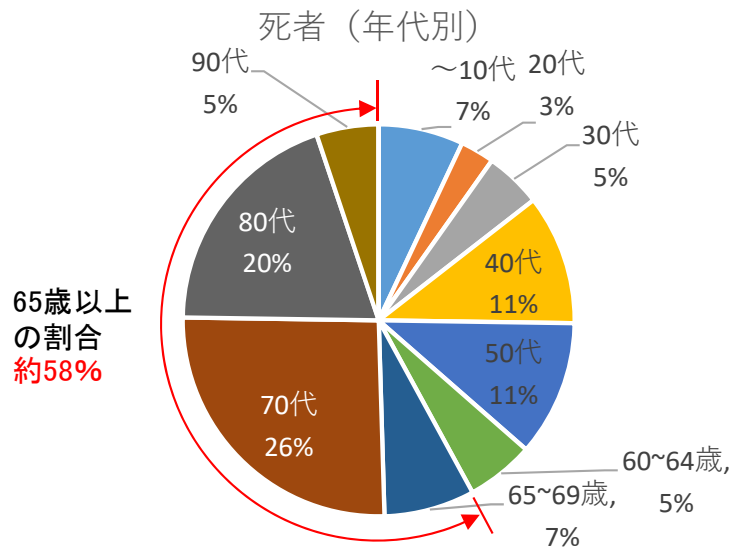


死者（災害種別）

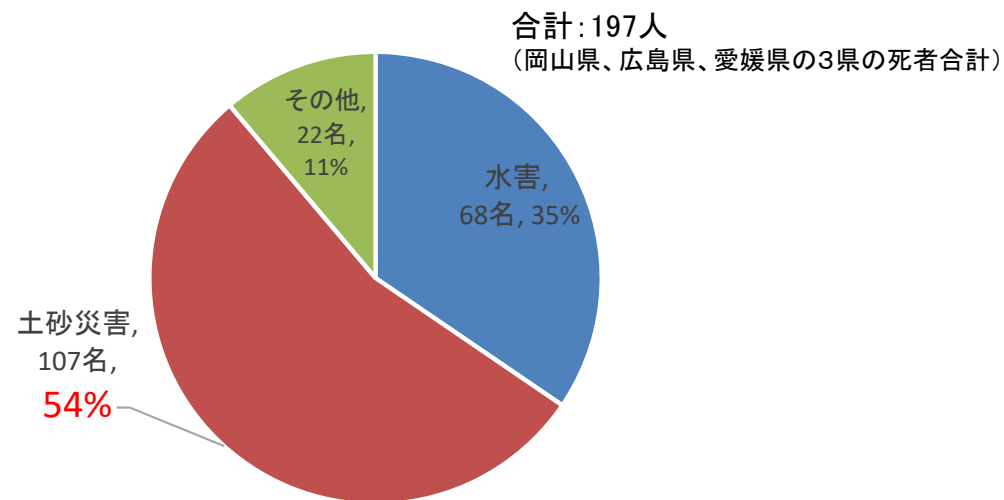


※その他に区分する死者は、車移動中の道路陥没箇所への転落による死者3名及び強風による死者3名

平成30年7月豪雨：死者214人



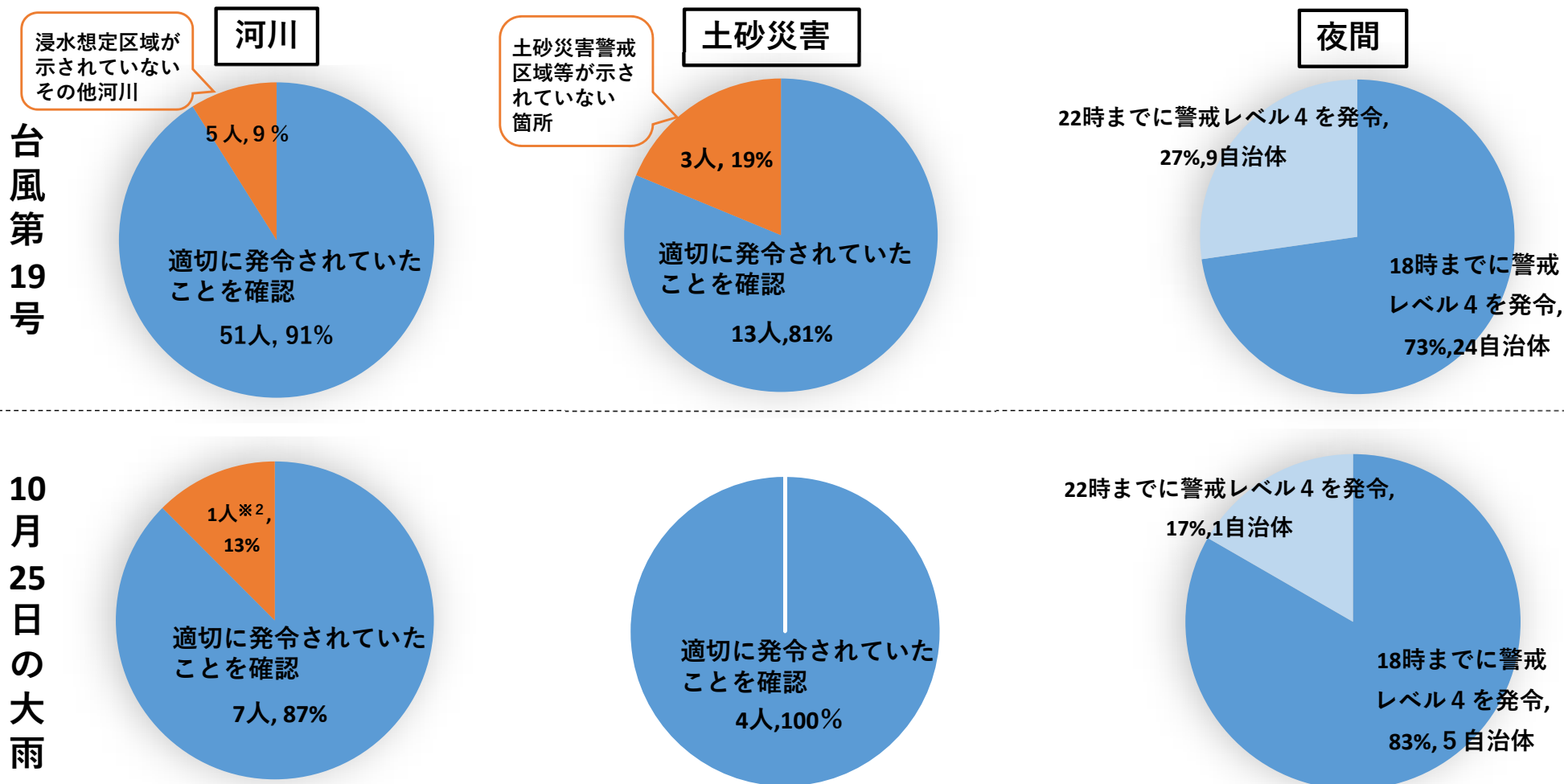
死者（災害種別/3県）



# 台風第19号及び10月25日の大雨における避難情報の発令タイミング

○河川(洪水予報河川、水位周知河川、その他河川)付近や土砂災害で人的被害が生じた箇所において、市町村から避難情報が適切に発令されていたか確認※<sup>1</sup>したところ、浸水想定区域や土砂災害警戒区域等のリスクが示されていない箇所等を除き、適切に発令されていた。

○人的被害が生じかつ警戒レベル4を発令した自治体において、暗くなる18時までに警戒レベル4が発令されていた自治体は7~8割程度。



※1 警戒レベル4相当情報の発表より前に、又は発表後速やかに警戒レベル4が発令されていたか等により確認

※2 (水位周知区間外での被災) : 自治体が自主的に、警戒レベル3相当や警戒レベル4相当の水位を設定し、それに応じて警戒レベル3、警戒レベル4を発令することになっている。今回、警戒レベル4避難勧告、避難指示は発令していないが、周囲が浸水し危ない状況になっていたため、防災行政無線にて、屋内安全確保を呼びかけた。